

シラバス

令和7年度

広島文化学園大学大学院

人間健康学研究科

修士課程

シラバス（授業計画） 目次

	科目名	担当教員	頁
1	人間健康学特講	加地信幸, 河野喬, 武田守弘, 東川安雄, 房野真也, 松田広, 和田正信, 相川貴裕, 鬼塚純玲, 高田康史, 升本絢也, 松尾晋典, 森木吾郎, 前田一篤, 五百竹亮丞, 澤屋真樹	3
2	健康スポーツ科学特講	和田正信	4
3	健康スポーツ心理学特講	武田守弘	5
4	健康スポーツ栄養学特講	鬼塚純玲	6
5	健康スポーツ生理学特講	森木吾郎	7
6	健康スポーツ運動学特講	升本絢也	8
7	スポーツバイオメカニクス特講	房野真也	9
8	生涯スポーツ特講	東川安雄	10
9	コーチング学特講	松尾晋典	11
10	スポーツ教育学特講	高田康史	12
11	体育科教育学特講	前田一篤	13
12	スポーツ文化・教育論特講	松田 広	14
13	体カトレーニング科学特講	相川貴裕	15
14	教職専門実習	松田広, 高田康史, 前田一篤	16
15	アダプテッド・スポーツ科学特講	加地信幸	17
16	障害福祉学特講	河野 喬	18
17	地域福祉実践特講	鶴岡和幸	19
18	児童・家庭福祉論特講	磯邊省三	20
19	社会福祉実践特講	澤屋真樹	21
20	医療福祉実践特講	五百竹亮丞	22
21	人間健康学特別研究Ⅰ	全員	23
22	人間健康学特別研究Ⅱ		24
23	人間健康学特別研究Ⅲ		25
24	人間健康学特別研究Ⅳ		26

人間健康学特講	加地信幸、河野喬、武田守弘、東川安雄、房野真也、松田広、和田正信、相川貴裕、鬼塚純玲、高田康史、升本絢也、松尾晋典、森木吾郎、前田一篤、五百竹亮丞、澤屋真樹	1年	前期	坂
Human health		2単位	必修	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本研究科の中心的な学問分野である「人間健康学」(障がいの有無、年齢にかかわらず、すべての人の幸福を実現するために、健康に関わる諸問題の解決手法を、医療・福祉、人文・社会等の幅広い分野から探究する総合科学)に対して、「健康・スポーツ」、「スポーツ教育」、及び「福祉/アダプテッド・スポーツ」の3領域から学際的・総合的に探究することを目的に、横断的・網羅的に各分野を教授する内容である。院生は自らが重点的に学ぶ専門領域・分野に加え、他領域・分野への興味関心を誘発し、人間健康学を多角的に追究する新たな教育研究領域・分野を発見することが期待される。

この授業は1年次に配当し、かつ必修科目として位置付ける。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(1)「自ら探求心を持ち、人間健康学分野における種々の課題を認識することができ、根拠に基づいた理論的な思考・指導・行動ができる」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	本授業の内容及び進行予定 人間健康学の概念、人間健康学の社会的、歴史的背景	本講義の内容及び進行方法について説明する。 人間健康学の概念、人間健康学の社会的、歴史的背景について解説する。	プレゼンテーションのテーマを検討する。人間健康学の概念、人間健康学の社会的、歴史的背景について理解する。	配布資料
2	健康スポーツ生理学	ヒトの身体の機能と運動・スポーツの関係について解説し、関連する研究論文等に基づいてディスカッションを行わせる。	ヒトの身体の機能と運動・スポーツの関係を理解する。	配布資料
3	アダプテッド・スポーツ(重度・重複障害児者)	アダプテッド・スポーツの専門的知識を理解したうえで、障がい者、特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者を対象とした指導理論を中心に解説する。	アダプテッド・スポーツの専門的知識、および重度・重複障害児者を対象とした指導理論を理解する。	配布資料
4	健康スポーツ科学	骨格筋の機能は人によって大きく異なる。「なぜ、そのような違いが生まれるのか」、「トレーニングによって、筋の機能を変えられることができるのか」などについて考える。	骨格筋の機能とスポーツパフォーマンスについて理解する。	配布資料
5	体カトレーニング科学	アスリートの競技力向上に関わるトレーニング科学の理論について解説する。最新のトレーニング方法を実践させ、その効果についてディスカッションを行わせる。	最新のトレーニング科学の理論について理解する。	配布資料
6	栄養・食事と健康	人間が成長・発育して生命を維持し、健康な生活活動を営むために必要な栄養・食事について解説する。自身の食生活を振り返り、良い点や改善点についてディスカッションを行わせる。	健康な生活活動を営むために必要な栄養・食事について理解する。	配布資料
7	体育科教育学	学校教員の養成・採用・研修の各段階における教育活動について概観する。とりわけ、保健体育科と関連させて、実際に行われている取り組みの体験を通して学ばせる。	体育科教育の取り組みについて理解する。	配布資料
8	スポーツ心理学(メンタルトレーニング)	スポーツ選手の競技力向上を目的としたメンタルトレーニングの理論、実施方法、指導方法について解説する。数種類のメンタルトレーニングプログラムを実践する。ディスカッションを行わせる。	メンタルトレーニングの理論、実施方法、指導方法について理解する。	配布資料
9	コーチング学	部活動やスポーツクラブに携わるスポーツ指導者が持つべき心構えや視点についてディスカッションを行わせる。	アスリートの育成・強化の方法とその評価を理解する。	配布資料
10	スポーツ教育学	「スポーツを教える」上で必要な1:スキル、2:心構え、3:準備にテーマを絞り議論を展開する。院生とのディスカッションを中心にスポーツを指導することを掘り下げる。	ディスカッションを通して、自らのスポーツ指導観を見つめ直すことができる。	配布資料
11	健康スポーツ科学	骨格筋の機能は人によって大きく異なる。「なぜ、そのような違いが生まれるのか」、「トレーニングによって、筋の機能を変えられることができるのか」などについて考えさせる。	骨格筋の機能とスポーツパフォーマンスについて理解する。	配布資料
12	障害福祉学	障がいの受容、社会参加について事例を基にディスカッションし、共生社会の実現に向けた課題解決について学び深める。	障がいのある人の身体的、精神的、社会的健康について理解する。	配布資料
13	スポーツ社会学	学校運動部及び地域スポーツクラブについて、クラブ論の観点から課題を解説し、その内容に基づいてディスカッションを行う。	ディスカッションを通して、クラブ観を見つめ直すことができる。	配布資料
14	スポーツ文化教育論	スポーツは西洋からの外来文化としてだけでなく、日本の風土・歴史理解をし、スポーツ観の転換を見据え、我が国におけるスポーツ文化の再生についてディスカッションを行う。	議論を展開しながら、自らのスポーツ観を転換することができる。	配布資料
15	スポーツ運動学	体育指導やスポーツ教育において指導者や学習者がよりよく運動スキルを改善する最適な方法を解説する。また、講義内容に基づいてディスカッションを行う。また、授業に関連したプレゼンテーション資料を作成し、授業全体を振り返る。	運動指導で最も最適なフィードバック方法について理解する。 授業全体の振り返りを行う。	配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
本講義は健康・スポーツ的内容、スポーツ教育的内容、福祉/アダプテッド・スポーツの内容の3つの分野から人間健康学についての理解を深める。人間健康学分野における課題を自ら見出し、幅広い視点を持ち根拠に基づいた理論的な思考・行動ができる能力を獲得する。	1) 各回における理解度 20% 2) 各回におけるディスカッション 30% 3) プレゼンテーション資料作成 50%	各授業の前に、関連する分野の資料や論文を検索し、授業の前に読んでおくこと。また、授業時には各自が検索した資料や論文を持参し、ディスカッション等に利用する。授業時に記録したノートや配布資料を用いて復習すること。自学習の時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

健康スポーツ科学特講 Science of Sports and Human Health	和田正信	1年	前期	坂
		2単位	必修	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本授業の内容は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシーのうち(1)「自ら探究心を持ち、人間健康学分野における種々の課題を認識することができ、根拠に基づいた理論的な思考・指導・行動ができる」と関連している。骨格筋は身体活動の源であり、この組織を健全に保つことにより、生活の質を維持・向上させることができる。また、多くの競技スポーツでは、優れた成績を収めるためには、その競技の運動特性に、筋の機能を適合させる必要がある。本講義では、筋の可塑性を学ぶことにより、骨格筋と健康およびスポーツとの関係を学修することを目的とする。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	授業の導入 授業の内容及び進め方の説明	講義の内容および授業の進め方の説明をし、その後、骨格筋の全体構造について解説する。	骨格筋の全体構造を理解する。	配布資料
2	エネルギー供給系	骨格筋の収縮に必要なエネルギーが、産生される仕組みについて解説する。	アデノシン三リン酸が、どのように産生されるのかを理解する。	配布資料
3	筋収縮の仕組み	筋の微細構造および骨格筋が収縮する仕組みについて解説する。	筋原線維の微細構造を理解する。	配布資料
4	問題設定	骨格筋に関する問題を設定し、個々が取り組む問題を決定する。	自分が取り組むべき問題の内容を把握する。	配布資料
5	筋線維の特性 1	担当学生の発表内容について討論するとともに、速筋線維と遅筋線維の違いについて解説する。	筋線維には、特性の異なる数種類のものがあることを理解する。	配布資料
6	筋線維の特性 2	担当学生の発表内容について討論するとともに、筋線維のタイプ移行について解説する。	筋の活動量が筋線維タイプに及ぼす影響について理解する。	配布資料
7	トレーニングによる筋の変化 1	担当学生の発表内容について討論するとともに、持久トレーニングによって何がどのように変わるのかについて解説する。	持久トレーニングが、骨格筋に及ぼす影響について理解する。	配布資料
8	トレーニングによる筋の変化 2	担当学生の発表内容について討論するとともに、筋力トレーニングによって何がどのように変わるのかについて解説する。	筋力トレーニングが骨格筋に及ぼす影響について理解する。	配布資料
9	食物が筋に及ぼす影響 1	担当学生の発表内容について討論するとともに、炭水化物の摂取が筋機能に及ぼす影響について解説する。	筋グリコーゲンの役割について理解する。	配布資料
10	食物が筋に及ぼす影響 2	担当学生の発表内容について討論するとともに、タウリン、窒素化合物などが筋機能に及ぼす影響について解説する。	筋力や持久力を高める食物があることを理解する。	配布資料
11	筋疲労 1	担当学生の発表内容について討論するとともに、高強度運動に伴う筋疲労の原因について解説する。	乳酸が発見されるまでの経緯について理解する。	配布資料
12	筋疲労 2	担当学生の発表内容について討論するとともに、リンが筋疲労に及ぼす影響について解説する。	乳酸に代わる筋疲労を招く物質について理解する。	配布資料
13	筋損傷	担当学生の発表内容について討論するとともに、筋損傷が起こる仕組みについて解説する。	伸張性収縮が筋の構造に及ぼす影響について理解する。	資料配布
14	筋の老化	担当学生の発表内容について討論するとともに、加齢に伴う筋の変化について解説する。	加齢に伴う筋の構造および機能の変化について理解する。	資料配布
15	授業の振り返りとまとめの討論、フィードバック	授業を振り返るために、学生間で骨格筋に関する討論を行わせる。	筋がスポーツパフォーマンスおよび健康に及ぼす効果について考える。	配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
骨格筋の可塑性について理解し、筋がスポーツパフォーマンスおよび健康に及ぼす影響への理解を深める。また、課題を解決し、それを説明する能力を獲得する。	1) 討論への参加態度 20% 2) プレゼンテーション 30% 3) 試験の成績 50%	各授業の前に、電子ファイルとした資料を配布するので、授業の前に読んでおくこと。また、授業時にノートした箇所及び配布資料を用いて復習すること。自学習の時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

適宜、資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

健康スポーツ心理学特講 Health and Sports Psychology	武田 守弘	1年	後期	坂
		2単位	必修	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本講義ではスポーツ及び健康に関する心理的諸問題について検討する。運動が人間の心を変化させ、また心理面の変化が運動パフォーマンスに影響を及ぼす。本講義では、運動やスポーツの実践過程を心理学的に解釈することから始め、運動が上手になる・楽しくなる環境や、そこでの行動変容について、さらには運動を継続することの意味や価値等についてもアプローチする。その中で、実践者の「やる気」や個人および集団の性質、技能向上のプロセスと練習方法・指導法等を講義する。また健康心理学の重要点である行動変容及びストレスにも焦点を当て、ストレスの発生機序及び対処方法等についても講義する。本講義は、関連する研究論文の検索及び精読、ディスカッション、プレゼンテーションを活用して双方向の講義を展開する。なお、本講義は本学科ディプロマ・ポリシー(2)に関連している。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	授業の導入、授業の内容及び進め方に関する説明、研究課題の設定に関する説明	講義の内容及び授業の進め方の説明をする。スポーツと健康に関する心理的分野について、興味関心、明らかにしたい研究内容を検討させる。スポーツ心理学及び健康心理学の歴史的背景について解説する。	研究テーマを決定する(該当回に研究発表を行う)。スポーツ心理学及び健康心理学の歴史的背景を理解する。	配布資料
2	性格とスポーツ スポーツに対する態度	性格とスポーツの関連性、スポーツ・運動の好嫌などの態度について解説する。院生の経験を基にグループディスカッションを行わせる。	性格とスポーツ、スポーツに対する態度を理解する。	論文及び配布資料 ネットで入手可能な教材
3	スポーツにおける攻撃行動 スポーツ指導における暴力	スポーツにおける攻撃行動の種類やその理由、スポーツ指導における暴力の背景について解説する。院生の経験を基にグループディスカッションを行わせる。	スポーツにおける攻撃行動、スポーツ指導における暴力について理解する。	論文及び配布資料 ネットで入手可能な教材
4	スポーツ選手のバーンアウト 傷害における心理的サポート ライフプランニング	スポーツ選手のバーンアウトになる過程、傷害における心理的動揺とそのサポート方法、競技者としてのライフプランニング(セカンドキャリア)について解説する。院生の経験を基にグループディスカッションを行わせる。	バーンアウト、傷害における心理的サポート、ライフプランニングについて理解する。	論文及び配布資料 ネットで入手可能な教材
5	覚醒・不安 メンタルトレーニング	覚醒・不安の定義と、競技者が競技場面で感じる緊張などに対する方策であるメンタルトレーニングについて解説する。メンタルトレーニングのテクニックを実践させる。	覚醒・不安、メンタルトレーニングについて理解する。	論文及び配布資料 ネットで入手可能な教材
6	動機づけとスポーツ	人間の欲求、動機づけの種類などについて解説する。院生の経験を基にグループディスカッションを行わせる。	動機づけとスポーツについて理解する。	論文及び配布資料 ネットで入手可能な教材
7	技能の体得	技能の分類、技能の体得に関する情報処理、効果的な練習方法などについて解説する。院生の経験を基にグループディスカッションを行わせる。	技能の体得について理解する。	論文及び配布資料 ネットで入手可能な教材
8	状況判断を養う スポーツ行動への社会的影響	状況判断過程、熟練者の状況判断の仕方など、チームワークをはじめ、スポーツ行動への社会的影響について解説する。院生の経験を基にグループディスカッションを行わせる。	状況判断の養成、スポーツ行動への社会的影響について理解する。	論文及び配布資料 ネットで入手可能な教材
9	スポーツにおけるジェンダー論	スポーツにおける性差、ジェンダーに関する歴史的背景について解説する。院生の経験を基にグループディスカッションを行わせる。	スポーツにおけるジェンダー論について理解する。	論文及び配布資料 ネットで入手可能な教材
10	行動変容を意図したプログラム 開発及びカウンセリング	行動変容を意図したプログラム開発及びカウンセリングについて解説する。カウンセリングにおけるロールプレイを経験させる。	行動変容を意図したプログラム開発及びカウンセリングについて理解する。	論文及び配布資料 ネットで入手可能な教材
11	行動変容理論の実践的適用	行動変容理論の実践的適用について解説する。院生の経験を基にグループディスカッションを行わせる。	行動変容理論の実践的適用について理解する。	論文及び配布資料 ネットで入手可能な教材
12	ストレスの考え方と評価法	ストレスの考え方と評価法について解説する。院生の経験を基にグループディスカッションを行わせる。	ストレスの考え方と評価法について理解する。	論文及び配布資料 ネットで入手可能な教材
13	ストレスマネジメントとカウンセリング	ストレスマネジメントとカウンセリングについて解説する。ストレスマネジメントとカウンセリングを実践させる。	ストレスマネジメントとカウンセリングについて理解する。	論文及び配布資料 ネットで入手可能な教材
14	運動の健康行動(禁煙など)への影響	運動の健康行動(禁煙など)への影響について解説する。院生の経験を基にグループディスカッションを行わせる。	運動の健康行動(禁煙など)への影響について理解する。	論文及び配布資料 ネットで入手可能な教材
15	授業の振り返りとまとめの討論	授業内容の振り返りを行う。院生の研究発表を振り返り、ディスカッションさせる。	授業内容及び研究発表についての討論に参加する。	配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
スポーツ及び健康に関する心理的諸問題についての理解を深める。関連する研究論文の検索及び精読、ディスカッション、プレゼンテーションを活用して講義の理解を深める。また、スポーツ心理学及び健康心理学分野の研究課題を自ら見出し、それを説明できる能力を獲得する。	1) 情報収集及び整理 30% 2) ディスカッション 30% 3) プレゼンテーション 40%	各授業の前に、関連する資料や論文を読んでおくこと。また、授業時には各自が検索した論文を持参し、ディスカッション等に利用する。授業時に記録したノートや配布資料を用いて復習すること。自学習の時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

健康スポーツ栄養学特講 Health and Sports Nutrition	鬼塚 純玲	2年	前期	坂
		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

スポーツ栄養学とは、運動やスポーツによって身体活動量が多い人に対して必要な栄養学的理論・知識・スキルを体系化したものである。国際オリンピック委員会や国際競技団体が発表しているスポーツ栄養コンセンサスでは、エビデンスに基づいた栄養・食事摂取の量や組成、タイミングなどに関する具体的な理論や知識がまとめられている。そこで本講義では、最新のスポーツ栄養コンセンサスを講読し、論文紹介とディスカッションを通して競技者に望ましい栄養摂取について理解を深め、専門的・実践的な知識を習得する。なお、本科目は本学コディプロマ・ポリシー(2)に関連している。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	授業概要および栄養学の基礎	授業の内容や進め方、成績評価の方法等について説明し、栄養学の基礎について復習させる。	授業概要および栄養学の基礎について理解する。	配布資料
2	エネルギー	論文を購読し、「エネルギー必要量」に関する最新の情報を解説する。	エネルギー必要量に関する最新の知識を習得する。	論文および配布資料
3	身体組成	論文を購読し、「身体組成」に関する最新の情報を解説する。	たんぱく質に関する最新の知識を習得する。	論文および配布資料
4	糖質摂取	論文を購読し、「糖質摂取」に関する最新の情報を解説する。	たんぱく質に関する最新の知識を習得する。	論文および配布資料
5	たんぱく質摂取	論文を購読し、「たんぱく質摂取」に関する最新の情報を解説する。	たんぱく質に関する最新の知識を習得する。	論文および配布資料
6	脂質摂取	論文を購読し、「脂質摂取」に関する最新の情報を解説する。	脂質に関する最新の知識を習得する。	論文および配布資料
7	ビタミンおよびミネラル	論文を購読し、「ビタミンおよびミネラル」に関する最新の情報を解説する。	ビタミンおよびミネラルに関する最新の知識を習得する。	論文および配布資料
8	水分摂取	論文を購読し、「水分摂取」に関する最新の情報を解説する。	水分摂取に関する最新の知識を習得する。	論文および配布資料
9	運動前の栄養・食事摂取	論文を購読し、「運動前の栄養・食事摂取」に関する最新の情報を解説する。	運動前の栄養・食事摂取に関する最新の知識を習得する。	論文および配布資料
10	運動中の栄養・食事摂取	論文を購読し、「運動中の栄養・食事摂取」に関する最新の情報を解説する。	運動中の栄養・食事摂取に関する最新の知識を習得する。	論文および配布資料
11	運動後の栄養・食事摂取	論文を購読し、「運動後の栄養・食事摂取」に関する最新の情報を解説する。	運動後の栄養・食事摂取に関する最新の知識を習得する。	論文および配布資料
12	サプリメント	論文を購読し、「サプリメント」に関する最新の情報を解説する。	サプリメントに関する最新の知識を習得する。	論文および配布資料
13	異なる環境における栄養・食事	論文を購読し、「異なる環境における栄養・食事」に関する最新の情報を解説する。	異なる環境における栄養・食事に関する最新の知識を習得する。	論文および配布資料
14	栄養補給計画の作成	第13回までに学修した内容を踏まえ、栄養補給計画を作成させる。	最新の科学的知識に基づいた栄養補給計画を作成することができる。	配布資料
15	発表	第14回で作成した栄養補給計画を発表させる。	他者にわかりやすく発表することができる。	
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
①最新のエビデンスに基づいた競技者に望ましい栄養摂取について理解する。 ②最新のエビデンスに基づいた情報を活用し、栄養補給計画を作成することができる。	1) 発表 40% 2) レポート 60%	①事前に配布する論文の該当箇所を読んでくる。 ②配布資料にメモを取り復習する。 ③自学習の総時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

教科書は使用せず、適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

健康スポーツ生理学特講 Health and Sports Physiology	森木 吾郎	1年	後期	坂
		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

スポーツ生理学とは、ヒトの身体の機能と運動・スポーツの関係について理解する科目であると同時に、あらゆる健康・運動指導における基礎的科目である。本講義では、運動・スポーツによって呼吸器系、循環器系などの各機能に生じる一時的・永続的適応、トレーニングに伴う各機能の変化について解説し、さらには関連する研究論文や実験データに基づいたディスカッションを行う。それらの講義を通して、スポーツ生理学領域の専門知識を身につけ、その知識を活用できる基盤を養う。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(2)「健康・スポーツ・教育・福祉等を複合させた専門性の高い高度な理論・指導技法を修得し、多様化した社会における人間の健康に対して多角的にアプローチできる実践力を有する。」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	オリエンテーション/ 生理学概論	授業の進行方法について説明する。生理学について概説する。	健康スポーツ生理学特講を通して学ぶべき内容の概要を理解する。	配布資料
2	運動・スポーツ活動とエネルギー供給系の関係	各エネルギー供給系の特徴と運動・スポーツ活動との関連について解説する。	エネルギー供給系と運動・スポーツ活動の関係について理解する。	配布資料
3	運動・スポーツ活動の生理学的指標の動態① 持続的運動	持続的運動の運動持続時間と生理学的指標の動態についてその特徴や関係性を解説し、関連する研究論文等に基づいてディスカッションを行わせる。	持続的運動中の生理学的指標の動態の特徴について理解する。	研究論文及び配布資料
4	持続的運動中の心拍動態	持続的運動時の心拍数についての測定方法について解説し、実際に実験において測定を行わせる。	持続的運動中の心拍動態の測定方法を理解し、実際に測定を行うことができる。	配布資料
5	運動・スポーツ活動の生理学的指標の動態② 間欠的運動	間欠的運動の運動持続時間と生理学的指標の動態についてその特徴や関係性を解説し、関連する研究論文等に基づいてディスカッションを行わせる。	間欠的運動中の生理学的指標の動態の特徴について理解する。	研究論文及び配布資料
6	間欠的運動中の心拍動態	間欠的運動時の心拍数についての測定方法について解説し、実際に実験において測定を行わせる。	間欠的運動中の心拍動態の測定方法を理解し、実際に測定を行うことができる。	配布資料
7	運動・スポーツによる循環器系の適応(トレーニング効果)	運動・スポーツに伴う一時的・永続的な循環器系機能(心拍数・拍出量・血圧など)の変化について解説する。	運動・スポーツに伴う一時的・永続的な循環器系機能の変化について理解する。	配布資料
8	最大酸素摂取量の測定と評価① 測定	最大酸素摂取量の測定方法や実験器具の操作方法などを解説し、実際に直接法による測定を行わせる。	最大酸素摂取量の測定方法を理解し、正確な測定を行うことができる。	配布資料
9	最大酸素摂取量の測定と評価② 評価	最大酸素摂取量の測定データを基に、結果の評価を行わせる。また、関連する研究論文等に基づいて結果の解釈についてディスカッションを行わせる。	測定結果を効果的な形式にまとめ、評価を行うことができる。	研究論文及び配布資料
10	運動・スポーツによる呼吸器系の適応(トレーニング効果)	運動・スポーツに伴う一時的・永続的な呼吸器系機能の変化について解説し、関連する研究論文等に基づいてディスカッションを行わせる。	運動・スポーツに伴う一時的・永続的な呼吸器系機能の変化について理解する。	研究論文及び配布資料
11	課題研究① 研究立案	健康・運動・スポーツに関する分野から、生理学的指標を用いて明らかにしたい研究内容を検討し、研究題目・研究計画を立案させる。	研究課題・題目を決定し、研究目的を明確にした研究計画を立てる。	配布資料
12	課題研究② 実験	研究計画に基づき、実験を行わせる。	研究計画に基づき、正確な測定を行うことができる。	配布資料
13	課題研究③ データ整理	実験で得られたデータに基づき、研究目的に沿った効果的な形式にデータを整理させる。	研究目的に沿った効果的な形式にデータを整理できる。	配布資料
14	課題研究④ 研究発表及びディスカッション	パワーポイントを用いた発表資料に基づき、研究内容について発表を行わせる。発表後は発表内容についてディスカッションを行わせる。	パワーポイントを使って発表し、ディスカッションに参加する。	配布資料
15	授業の振り返りとまとめのディスカッション	授業の振り返りとフィードバックを含めて、ヒトの身体の機能と運動・スポーツの関係についてディスカッションを行わせる。	ディスカッションに参加し、授業内容を踏まえた自分の意見を表現できる。	配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
①スポーツ生理学の実験手法を理解し、正確な測定を行うことができる。 ②実験結果や測定値について結果をまとめ、客観的に考察することが出来る。 ③自ら研究課題を立案し、その課題を生理学的な研究手法を用いて解決できる。	各測定法の習得度20%、レポート40%、研究発表及びディスカッション40%を評価対象として、総合的に評価する。	シラバスで各回の内容を知り、授業を受けること。行った実験や測定についてレポート課題を出すので、レポートとしてまとめながら復習を行うこと。また、配布資料や関連する研究論文等を用いて復習を行うこと。自学習の総時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

健康スポーツ運動学特講 Health and Sports Kinesiology	升本 絢也	1年	前期	坂
		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本講義では、スポーツ運動学の諸問題を取り扱い、健康を促進する運動及びスポーツ活動における巧みな身体動作に係る科学的（神経生理学的・実験心理学的）および哲学的な研究にアプローチする。本講義の目的は日常生活における健康運動やスポーツ場面における非常に複雑な運動スキルの分類や解釈法を網羅し、多様で複雑な人間の身体運動を高レベルで分析・考察・解釈できる能力の得ることである。授業では、関連する研究論文の精読及びプレゼンテーションを介して双方向の講義を展開し、知識を深化させる。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(2)「健康・スポーツ・教育・福祉等を複合させた専門性の高い高度な理論・指導技法を修得し、多様化した社会における人間の健康に対して多角的にアプローチできる実践力を有する。」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	授業の導入 授業の内容及び進め方の説明	講義の内容及び授業の進め方の説明をし、その後、運動学の目標である経済性と合目的性について紹介する。	運動学における経済性と合目的性について理解する。	配布資料
2	運動学習段階	人間の運動学習過程を記述した理論を、教育学、体育学、作業心理学、実験心理学、認知心理学、情報科学、の領域から紹介し、運動学のそれと比較させる。	各領域における運動学習段階を理解する。	配布資料
3	フィードバック制御と理論	人間の工学的解釈であるフィードバック理論を学ぶことで、人間の運動学習や改善過程や制御という水準で人間を考察する観点を講義する。	フィードバック制御の理論を理解し、人間の運動行動を説明・解釈できるようになる。	配布資料
4	運動学習におけるフィードバックの種類	運動学習で用いるフィードバックの種類を学び、どういった種類、頻度、タイミングでフィードバックを与えることが適切かを講義し、議論させる。	運動指導の際に学習者の練習効果を高めるための適切なフィードバック方法を学ぶ。	配布資料
5	情報処理モデルとして運動学習理論	運動学習理論におけるS-R理論、閉回路理論、及びスキーマ理論に加え近代の知見を紹介し、各理論の長所と短所を整理する。	運動指導等において適切なフィードバックの与え方について理解する	配布資料
6	ベルンシュタインの問題：運動の不良設定問題	人間の動きにおける「ベルンシュタイン問題（自由度と文脈の問題）」に焦点をあて、人間の運動システムの冗長性について講義し、議論させる。	人間の運動パターンはあるが、目標達成のため柔軟な動作を実現できることを知る。	配布資料
7	コーディネーション①	人間を一つのシステムとして捉えるという新しいアプローチであるダイナミカル・システムズ・アプローチの視点からコーディネーションについて議論させる。	人間が多くの関節自由度をいかに単位化して制御しているのかを理解する。	配布資料
8	コーディネーション②	計算論的神経科学の視点からコーディネーションについて講義する。個人レベルだけでなく個人間にわたるコーディネーションの最新の研究を紹介する。	新しい人間のコーディネーションの解釈法について理解する。	配布資料
9	ボディ・イメージの形成	人は自身の手足や体幹の位置を把握するために、ボディ・イメージを形成しているが、そのメカニズムについて講義する。	どのように自身の体を知覚しているのかを理解する。	配布資料
10	研究課題の設定	健康スポーツ運動学に関する分野について、明らかにしたい研究内容を検討させ、研究題目を決定させる。	研究課題・題目を決定し、研究目的を明確にした研究計画を立てる。	配布資料
11	研究課題に対する資料収集・整理	研究目的に基づき、論文、本などから資料を収集させ、整理させる。	発表するための資料を収集し整理する。	配布資料
12	研究課題のプレゼンテーション準備	各受講者は研究内容をパワーポイントにまとめ、発表の準備をさせる。	収集した資料をパワーポイントにまとめ、発表準備を行う。	配布資料
13	研究課題のプレゼンテーション及び討論（1）	受講者にはパワーポイントによるプレゼンテーションを行わせ、発表後質疑応答をさせる。	パワーポイントを使って発表し、質疑応答に参加する。	資料配布
14	研究課題のプレゼンテーション及び討論（2）	受講者にはパワーポイントによるプレゼンテーションを行わせ、発表後質疑応答をさせる。	パワーポイントを使って発表し、質疑応答に参加する。	資料配布
15	授業の振り返りとまとめの討論	授業を振り返るために、受講者間で本講義で学んだ知見をどのように、運動指導、健康指導に活かすのかについて討論を行わせ、討論の内容に関するフィードバックを行う。	本講義の知見を実際現場へ応用するための討論に参加する。	配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
運動指導やスポーツ教育において、人がどのように自身の身体を制御し、いかに他者と相互作用しているのかメカニズムへの理解を深める。また、健康運動学分野の研究課題を自ら見出し、それを探求し・説明できる能力を獲得する。	1) レポート内容 30% 2) 情報収集及び整理 30% 3) プレゼンテーション 40%	各授業の前に、電子ファイルとした論文及び資料を配布するので、授業の前に読んでおくこと。また、授業時にノートした箇所及び配布資料を用いて復習すること。自学習の時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

運動行動の学習と制御—動作制御へのインターディシプリナリー・アプローチ、 麓 信義（編）、杏林書店

7. その他(履修の要件等)

特になし

スポーツバイオメカニクス特講 Sports Biomechanics	房野 真也	1年	後期	坂
		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

身体運動や生物の構造を力学的な側面から解明する領域がバイオメカニクスである。解剖学・生理学・力学を応用して、身体の動きの巧みさ、美しさ、また効率的な動きを解明しようというスポーツ科学の一分野である。本講義では、主に運動・スポーツ分野について、バイオメカニクスの観点から捉えるために必要な測定方法、分析方法、データ処理法を理解し、合理的に運動技術を獲得できるよう実際に応用できることを目的とする。授業は、関連する研究論文の精読及びディスカッションやプレゼンテーションを活用して双方向の講義を展開する。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(2)「健康・スポーツ・教育・福祉等を複合させた専門性の高い高度な理論・指導技法を修得し、多様化した社会における人間の健康に対して多角的にアプローチできる実践力を有する。」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	オリエンテーションおよびスポーツバイオメカニクスの意義	本授業の概要、到達目標、評価他について説明し、その後スポーツバイオメカニクスの意義について説明する。	バイオメカニクスの意義を理解する。	配布資料
2	力学の基礎	スカラー量、ベクトル量、力学モデルなど力学の基礎について説明する。	力学の基礎を理解する。	配布資料
3	並進運動のキネマティクス	加速度と力の関係、等速度運動、等加速度運動など並進運動のキネマティクスについて説明する。	並進運動のキネマティクスを理解する。	配布資料
4	回転運動のキネマティクス	角速度と速度の関係、角加速度の正負など回転運動のキネマティクスについて説明する。	回転運動のキネマティクスを理解する。	配布資料
5	並進運動のキネティクス	外力と内力、運動量と力積など並進運動のキネティクスについて説明する。	並進運動のキネティクスを理解する。	配布資料
6	回転運動のキネティクス	力のモーメント(トルク)、回転運動の運動方程式など回転運動のキネティクスについて説明する。	回転運動のキネティクスを理解する。	配布資料
7	スポーツバイオメカニクスの研究手法①(映像)	映像を用いた測定法及び分析法を説明し、実際の研究例について紹介する。	映像を用いた研究手法を理解する。	配布資料
8	スポーツバイオメカニクスの研究手法②(筋電計)	筋電計を用いた測定法及び分析法を説明し、実際の研究例について紹介する。	筋電計を用いた研究手法を理解する。	配布資料
9	スポーツバイオメカニクスの研究手法③(フォースプレート)	フォースプレートを用いた測定法及び分析法を説明し、実際の研究例について紹介する。	フォースプレートを用いた研究手法を理解する。	配布資料
10	スポーツバイオメカニクス研究の文献購読	スポーツバイオメカニクスに関する文献を購読し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行わせる。	購読した文献について要約し、理解を深めることができる。	配布資料
11	研究課題の設定	スポーツバイオメカニクスに関する分野について、明らかにしたい研究課題を設定させる。	研究課題を決定し、研究目的を明確にした研究計画を立てる。	配布資料
12	プレゼンテーション準備	研究課題について発表資料をまとめ、プレゼンテーションの準備を行わせる。	収集した情報を発表資料にまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。	配布資料
13	プレゼンテーション	研究課題について、プレゼンテーションを行わせる。	発表資料を使って発表する。	配布資料
14	ディスカッション	プレゼンテーションについて質疑応答を行い、ディスカッションを行わせる。	質疑応答を行い、ディスカッションする。	配布資料
15	授業の振り返りとまとめ	授業を振り返り、ディスカッションを用いて理解を深めさせる。	本授業の全体像を説明することができる。	配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
①スポーツバイオメカニクスにおける研究手法の理論を理解する。 ②スポーツバイオメカニクスにおける理論的背景を理解し、自身の研究課題を考案・立案することができる。	受講態度10%、課題40%、レポート内容50%を基に総合的に評価する。	シラバスで各回の内容を知り、講義を受けること。講義中、配布されたプリントで復習をし、理解を深めること。自学習の時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

生涯スポーツ特講 Lifelong Sport	東川 安雄	1年	前期	坂
		2単位	必修	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本授業では、生涯スポーツ社会の実現が求められる社会的・歴史的背景をふまえ、生涯スポーツに関する国内外の捉え方、さらにはスポーツの価値、スポーツとライフステージやライフスタイル等に関する知見を深め、指導者として必要なスポーツ・インテグリティと専門性の高い理論的科学的な指導に関する知識を身に付けることを目的とする。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(2)「健康・スポーツ・教育・福祉等を複合させた専門性の高い高度な理論・指導技法を修得し、多様化した社会における人間の健康に対して多角的にアプローチできる実践力を有する。」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	授業の導入 授業の内容及び進め方の説明 生涯スポーツの社会的背景	講義の内容及び授業の進め方の説明をし、その後生涯スポーツ社会の実現が求められている社会的背景について講義する。	生涯スポーツの社会的背景について理解する。	配布資料
2	外国における生涯スポーツ論	ヨーロッパ・みんなのスポーツ憲章等をふまえ、外国における生涯スポーツのとりえ方について講義する	外国における生涯スポーツのとりえ方について理解する。	配布資料
3	わが国における生涯スポーツ論	社会体育、コミュニティスポーツ、生涯スポーツ等、我が国における生涯スポーツのとりえ方の変遷を講義する。	わが国の生涯スポーツ論の変遷を理解する。	配布資料
4	外国における生涯スポーツ政策	西ドイツのゴールデンプランを事例として、外国における生涯スポーツ政策を講義する。	外国における生涯スポーツ政策を理解する。	配布資料
5	わが国における生涯スポーツ政策	スポーツ基本法やスポーツ基本計画等について説明し、我が国における生涯スポーツ政策について講義する。	わが国における生涯スポーツ政策を理解する。	配布資料
6	ライフステージとスポーツ① 青少年	スポーツ実施率向上のための行動計画をふまえ、青少年のスポーツ活動の現状と課題について講義する。	青少年のスポーツ活動の現状と課題を理解する。	配布資料
7	ライフステージとスポーツ② 女性	スポーツ実施率向上のための行動計画をふまえ、女性のスポーツ活動の現状と課題について講義する。	女性のスポーツ活動の現状と課題を理解する。	配布資料
8	ライフステージとスポーツ③ 高齢者	スポーツ実施率向上のための行動計画をふまえ、高齢者のスポーツ活動の現状と課題について講義する。	高齢者のスポーツ活動の現状と課題を理解する。	配布資料
9	ライフステージとスポーツ④ 障がい者	スポーツ実施率向上のための行動計画をふまえ、障がい者のスポーツ活動の現状と課題について講義する。	障がい者のスポーツ活動の現状と課題を理解する。	配布資料
10	研究課題の設定	生涯スポーツに関する分野について、明らかにしたい研究内容を検討し、研究課題を決定させる。	研究課題を決定し、研究目的を明確にした研究計画を立てる。	配布資料
11	研究課題に対する資料収集・整理	研究目的に基づき、論文、本などから資料を収集し、整理させる。	発表するための資料を収集し整理する。	配布資料
12	研究課題のプレゼンテーション準備	各受講者は研究内容をパワーポイントにまとめ、発表の準備を行わせる。	収集した資料をパワーポイントにまとめ、発表準備を行う。	配布資料
13	研究課題のプレゼンテーション及び討論(1)	受講者はパワーポイントによるプレゼンテーションを行い、発表後質疑応答を行わせる。	パワーポイントを使って発表し、質疑応答に参加する。	資料配布
14	研究課題のプレゼンテーション及び討論(2)	受講者はパワーポイントによるプレゼンテーションを行い、発表後質疑応答を行わせる。	パワーポイントを使って発表し、質疑応答に参加する。	資料配布
15	授業の振り返りとまとめの討論	授業を振り返るために、受講者間で生涯スポーツ社会実現のための課題と方策について討論を行わせる。	生涯スポーツの課題と方策についての討論に参加する。	配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
生涯スポーツ社会を実現するための社会的視点の必要性、その現状と課題を理解するとともに、生涯スポーツ社会実現のための方策にかかわる理論的科学的な指導にかかわる知識の能力を獲得する。	1) レポート 60% 2) プレゼンテーション 40%	各授業の前に、電子ファイルとした論文及び資料を配布するので、授業の前に読んでおくこと。また、授業時にノートした箇所及び配布資料を用いて復習すること。自学習の時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

コーチング学特講 Coaching	松尾 晋典	1年	後期	坂
		2単位	必修	講義

1. 授業の目的(ねらい)

「指導」「育成」という行動機軸に、「マネジメント」「国際性への対応」「事故防止・安全対策」を加えた5つのコーチング行動と、コーチングの哲学・倫理について学習し、効果的なコーチングにおける理論および実践法の理解を深めることを目的とする。また、コーチング方法や実践に関するこれまでの研究成果や事例を通しての学習だけではなく、「聴く」「伝える」などのファシリテーションスキルを高める機会を設け、コミュニケーション能力の向上を目指した双方向の講義を展開する。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(1)「自ら探求心を持ち、人間健康学分野における種々の課題を認識することができ、根拠に基づいた理論的な思考・指導・行動ができる」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	イントロダクション コーチングの定義および役割	本授業の概要、到達目標、単位認定方法、進め方、及び履修上の注意について説明を受け、コーチングの定義および役割について学びを深める。	授業目標の全体像を把握し、コーチングとは何かを説明できる。	配布資料
2	ファシリテーションの基本	「引き出して」「まとめる」ための考え方や必要とされるスキルについて学びを深める。	ファシリテーションとは何かを説明できる。	配布資料
3	コーチングのための指導行動	専門とするスポーツ種目のパフォーマンス構造を整理し、高度に理解させる。	コーチングのための指導行動とは何かを説明できる。	配布資料
4	指導行動に対するディスカッション	計画・実践・省察を循環させ続ける創造的な方略を取っている事例を持ち寄り、ディスカッションを行わせる。	「聴く」「伝える」などのファシリテーションスキルを経験する。	作成資料
5	コーチングのための育成行動	「誉める」「叱る」に加えて話を聞くカウンセリング行動やライフスキルの教育について学びを深める。	コーチングのための育成行動とは何かを説明できる。	配布資料
6	育成行動に対するディスカッション	「心理学」「コミュニケーション」「カウンセリング」「教育学」「感情コントロール」に関する知識・経験・スキルについてディスカッションを行わせる。	「聴く」「伝える」などのファシリテーションスキルを経験する。	論文及び作成資料
7	コーチングのためのマネジメント行動	「人的配置・組織」「経営学」「情報学」「施設管理」に関する知識を整理して理解させる。	コーチングのためのマネジメント行動とは何かを説明できる。	配布資料
8	マネジメント行動に対するディスカッション	チームマネジメントについての資料(事例)を持ち寄り、ディスカッションを行わせる。	「聴く」「伝える」などのファシリテーションスキルを経験する。	論文及び作成資料
9	コーチングのための国際性に対応できる行動	「語学」「多文化理解」「日本文化への深い理解」に関する知識を整理して理解させる。	国際性に対応できる行動とは何かを説明できる。	配布資料
10	国際性に対応できる行動に対するディスカッション	国際性への対応についての資料(事例)を持ち寄り、ディスカッションを行わせる。	「聴く」「伝える」などのファシリテーションスキルを経験する。	論文及び作成資料
11	コーチングのための事故防止・安全対策行動	「スポーツ医学」「臨床心理学」「救命救急」に関する知識を整理して理解させる。	事故防止・安全対策行動とは何かを説明できる。	配布資料
12	事故防止・安全対策行動に対するディスカッション	事故防止・安全対策についての資料(事例)を持ち寄り、ディスカッションを行わせる。	「聴く」「伝える」などのファシリテーションスキルを経験する。	論文及び作成資料
13	研究課題に対する資料収集・整理	研究目的に基づき、論文や資料などから情報を収集・整理し、プレゼンテーションの準備を行わせる。	発表するための資料を収集し整理する。	配布資料
14	研究課題のプレゼンテーション	受講者はパワーポイントによるプレゼンテーションを行い、発表後質疑応答を行わせる。	パワーポイントを使って発表し、質疑応答に参加する。	資料配布
15	授業の振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、ディスカッションを用いて学びを深める。	コーチングの全体像を説明することができる。	論文及び配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
コーチとしてのより良い指導ができると共に、コーチデベロッパーとしての資質と基礎的能力を備えた人材の育成を図ることを目標とする。	1) レポート(作成資料) 40% 2) プレゼンテーション 40% 3) ファシリテーション 20%	1) c-learningを利用して資料や論文を共有する 2) c-learning内に共有された資料をもとに予習復習を行う。 3) 自学習の時間は、60時間以上とする

6. 教科書・参考図書等

適宜論文および資料を配布する

7. その他(履修の要件等)

特になし

スポーツ教育学特講 Sport Education	高田 康史	1年	前期	坂
		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

この講義では、スポーツ・運動の指導力や教育力を高めることを目標とする。競技スポーツ・社会体育・学校体育に存在する、これまでの典型教材や学習方法及び学習指導方法、そして、練習方法やワークについて、その在り方や価値、メリット・デメリットを探索する。その中で、勝利を目指すことや課題を克服すること、記録を伸ばすために有効な教育方法についてペアワーク・ディスカッションなどAL的手法を交えて考察していく。また、講義の後半では、模擬的な指導実践・マイクロティーチングなども踏まえた実践的な教育方法についてスキルアップを目指すこととする。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(1)「自ら探求心を持ち、人間健康学分野における種々の課題を認識することができ、根拠に基づいた理論的な思考・指導・行動ができる」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	オリエンテーション	「スポーツ」と「体育」、講義の進め方、評価について	講義の進め方を理解するとともに、次回の講義への準備をすることができる。	配布資料
2	典型教材等の紹介 持久走・ハードル・短距離走	持久走・ハードル・短距離走の典型教材について、紹介を行う。また、講義の後半では、典型教材のその在り方や価値、メリットデメリットを探索させる。	持久走・ハードル・短距離走の典型教材の価値について理解することができる。	配布資料
3	典型教材等の紹介 表現系ダンス・リズム系ダンス	表現系ダンス・リズム系ダンスの典型教材について、紹介を行う。また、講義の後半では、典型教材のその在り方や価値、メリットデメリットを探索させる。	表現系ダンス・リズム系ダンスの典型教材の価値について理解することができる。	配布資料
4	典型教材等の紹介 体づくり運動	体づくり運動の典型教材について、紹介を行う。また、講義の後半では、典型教材のその在り方や価値、メリットデメリットを探索させる。	体づくり運動の典型教材の価値について理解することができる。	配布資料
5	典型教材等の紹介 ゴール型球技	ゴール型球技の典型教材について、紹介を行う。また、講義の後半では、典型教材のその在り方や価値、メリットデメリットを探索させる。	ゴール型球技の典型教材の価値について理解することができる。	配布資料
6	典型教材等の紹介 水泳	水泳の典型教材について、紹介を行う。また、講義の後半では、典型教材のその在り方や価値、メリットデメリットを探索させる。	水泳の典型教材の価値について理解することができる。	配布資料
7	典型教材等の紹介 ネット型球技	ネット型球技の典型教材について、紹介を行う。また、講義の後半では、典型教材のその在り方や価値、メリットデメリットを探索させる。	ネット型球技の典型教材の価値について理解することができる。	配布資料
8	典型教材等の紹介 武道	武道の典型教材について、紹介を行う。また、講義の後半では、典型教材のその在り方や価値、メリットデメリットを探索させる。	武道の典型教材の価値について理解することができる。	配布資料
9	競技スポーツにおけるトレンド ワークアウトの紹介 ウォーミングアップ	競技スポーツにおける最新トレンドのウォーミングアップについて、分析検討を行う。また、場合によっては実践を交えながらメリットや効果について吟味させる。	自身のウォーミングアップについての考え方を捉え直し再構築できる。	配布資料
10	競技スポーツにおけるトレンド ワークアウトの紹介 フィジカルトレーニング	競技スポーツにおける最新トレンドのフィジカルトレーニングについて、分析検討を行う。また、場合によっては実践を交えながらメリットや効果について吟味させる。	自身のフィジカルトレーニングについての考え方を捉え直し再構築できる。	配布資料
11	競技スポーツにおけるトレンド ワークアウトの紹介 ドリル練習	競技スポーツにおける最新トレンドのドリル練習について、分析検討を行わせる。また、場合によっては実践を交えながらメリットや効果について吟味させる。	自身のドリル練習についての考え方を捉え直し再構築できる。	配布資料
12	運動指導・模擬授業・マイクロ ティーチング インストラクション	インストラクションに着目した運動指導・模擬授業・マイクロティーチングを行わせる。	よりよいインストラクションスキルを追求することができる。	配布資料
13	運動指導・模擬授業・マイクロ ティーチング マネジメント	マネジメントに着目した運動指導・模擬授業・マイクロティーチングを行わせる。	よりよいマネジメント方略を追求することができる。	配布資料
14	運動指導・模擬授業・マイクロ ティーチング インターアクション	インターアクションに着目した運動指導・模擬授業・マイクロティーチングを行わせる。	よりよいインターアクションを追求することができる。	配布資料
15	講義の総括	まとめ	講義の振り返りを行い、自身の指導感についてまとめることができる。	配布資料
16				

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
勝利を目指すことや課題を克服すること、記録を伸ばすために有効な教育方法について自分自身で考えをまとめ、自身の指導観を形成することができる。	1) ディスカッションへの参加 30% 2) 実践指導 30% 3) 最終レポート 30% 4) 参加態度・主体性 10%	次回の課題への事前学習を毎時間行うこと。また、内容によっては調べ学習や、実践指導を行うためそのための準備を行うこと。

6. 教科書・参考図書等

中学校学習指導要領解説 保健体育編
高等学校学習指導要領解説 保健体育編

7. その他(履修の要件等)

特になし

体育科教育学特講 The Pedagogy of Physical Education	前田 一篤	1年	後期	坂
		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本講義では、昨今の学校教育における歴史や教育的意義を確認し、その教材の検討および体育教師の養成・採用・研修の段階を通じた力量形成について、実践的・理論的な両面から検討する。教育の最前線に立つ教師の力量形成について、文部科学省は「学び続ける教師像」の確立を求めている。これは、教職生活全体を通じて、教師それぞれが自らの実践的指導力の向上を図るとともに、めまぐるしく変化する社会状況の中で、教育の断続的な刷新が必要であることを示している。そこで本講義では、勝敗を競ったり課題を克服したりすることを主たるゴールとする身体運動である「スポーツ」と、教育の一環として体力の向上だけでなく社会的態度や健康な生活を営む態度を養うことを指導する「体育」の違いを理解するとともに、教師が探究力を持ち学び続けるために必要な要素や方法について、ディスカッションやプレゼンテーションなどを交えた双方向な展開で検討していく。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(2)に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	オリエンテーション (本授業の意義と概要)	本講義の内容及び授業の進め方について説明し、その意義について理解させる。	授業の流れを理解し、体育科教育学について理解する。	配布資料
2	歴史的に見る体育科教育学	体育科教育学という学問の歴史的変遷について、教科教育学などの解説を交えて理解させる。	体育科教育学の成り立ちについて理解する。	配布資料
3	体育科教育学の研究動向①：国内編	日本における体育科教育の特質と課題を、先行研究の分析からまとめさせる。	日本国内における体育科教育学に関する研究について理解する。	配布資料
4	体育科教育学の研究動向②：国外編	諸外国における体育科教育の特質と課題を、先行研究の分析からまとめさせる。	諸外国における体育科教育学に関する研究について理解する。	配布資料
5	体育科教育の事例研究①：日本における体育科教育カリキュラムの事例の選出	履修者が自ら学修してきた体育科教育に関する内容を振り返り、整理・分析を行わせる。	これまでの経験と重ねて、体育科教育の内容について理解する。	配布資料
6	体育科教育の事例研究②：校内研修フィールドワーク	各学校における校内研修で実施されている体育科教育の事例について整理して、分析を行わせる。	各学校における体育科教育に巻く取り組みについて理解する。	配布資料
7	体育科教育の事例研究③：校外研修フィールドワーク	各学校の外で実施される体育科教育に関連する取り組みの事例について整理して、分析を行わせる。	学校以外の場で取り組まれている体育科教育について知る。	配布資料
8	体育科教育の検討①：テーマの検討	履修者が自ら体育科教育に関連する研修を実施する事を目標として、そのプログラムのねらいについて検討させる。	自らの体育科教育に関する考えを基に、プログラムのねらいについてディスカッションする。	配布資料
9	体育科教育の検討②：プログラムの検討	前時にまとめた体育科教育に関連する研修のねらいに基づいて、実際に行うプログラムについて考案させる。	ねらいに即したプログラム内容について意見を出し合い、まとめる。	配布資料
10	体育科教育の分析研究③：プログラムの実施	履修者自身で考案したプログラムを実際に行わせる。	役割を分担して円滑にプログラムを実施する。	配布資料
11	体育科教育の分析研究④：プログラムの評価	実施したプログラムを振り返り、その改善点について検討させる。	それぞれの役割ごとの反省を出し合い、その成果と改善点について共有する。	配布資料
12	体育科教育の分析研究⑤：成果報告	体育科教育に関連する研修のねらいの設定、プログラムの考案、実施およびその評価と改善についてのプレゼンテーションを行わせる。	役割分担をして、円滑にプレゼンテーションを行う。	配布資料
13	体育科教育者についての研究	体育科教育者に関する資料を収集し、現代社会における体育科教育の役割と現状の課題についてディスカッションさせる。	体育科教育者の役割と課題について理解する。	配布資料
14	新しい体育科教育者の養成・育成に関する研究	近年実施されている体育科教育の実践家を養成・育成する取り組みに関する資料を収集し、その内容についてディスカッションさせる。	体育科教育の養成・育成に関する内容について理解する。	配布資料
15	本授業のまとめ (総括と今後の体育科教育の課題)	授業全体を振り返り、履修者自身の体育科教育についての考えをまとめ、ディスカッションさせる。	それぞれが授業を通して学んだことを共有する。	配布資料
16	なし	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法 (予習・復習等)
体育科教育を実践する立場から、学校教育における保健体育科を中心にその意義や方略について理解を深め、自らの考えを述べることでできるようになる。また、実践を通しての経験を基に、今後の活動に活かすことができるようになる。	1) 資料収集及び整理 30% 2) プレゼンテーション及びフィールドワーク40% 3) ディスカッション 30%	資料は電子ファイルにして共有する。共有された資料については事前に目を通して内容を理解しておくこと。また、授業中に配布した資料はファイリングし、復習に活用すること。自習の総時間は50時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

授業内で適宜指示する。

7. その他 (履修の要件等)

特になし

スポーツ文化・教育学特講 Sports Culture and Education	松田 広	2年	前期	坂
		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本講では、現代スポーツの諸問題へと考察を深めながらスポーツと教育・倫理の関係について理解していく。授業ではテキストを中心に解説しながら、各自の担当箇所を発表していく。また、現代スポーツの諸問題の考察を通して、スポーツと教育・倫理への考察を深めることを目標としている。「中学校・高等学校の運動部活動の現状と課題の収集が行える」また、「アクティブラーニング(グループ学習や班別)」等のディスカッション形式を取り入れ、課題を明確化し解決方法等の指導をする。保健体育科教員として30年以上現場で勤務した経験から、実践的な学びを提供する。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	スポーツとルール ・ルール学への接近から・スポーツのルール学から学ぶもの	スポーツルールとは何か、ルールの機能(3つの機能から)また、ルールの構造(ルールを形づくるものから)をスポーツ教育学的な視点から解説を交えて理解させる。	ルールとは何かを「なぜ、どうして」からの問いを発することから理解する。	配布資料
2	スポーツとルール ・ルール成文化 ・プレーの自己統治	スポーツのルールに見る形式の問題から、形式を強要するルール及び社会の中でのスポーツとルールをスポーツ教育学的な視点から解説を交えて理解させる。	今後ルールは「どうあるべきか」からの問いを発することから理解する。	配布資料
3	スポーツとマネジメント ・スポーツマネジメント教育 ・スポーツマネジメントも人材育成と現状	スポーツマネジメントとは何か、マネジメントの機能(3つの視点から)また、スポーツ文化の違いからのマネジメントをスポーツ教育学的な視点から解説を交えて理解させる。	スポーツマネジメントとは何かをスポーツに命を吹き込むソフトでもあることを理解する。	配布資料
4	スポーツマネジメント ・スポーツマーケティングの誕生と発展・スポーツマーケティングのあるべき姿	スポーツマネジメントとの発生と発展から、スポーツ活動の生産体制、スポーツ組織、サービス業の発想など、スポーツ教育学的な視点から解説を交えて理解させる。	スポーツの「資源、組織、活動」から今後のスポーツ市場のあり方などを理解する。	配布資料
5	スポーツの制度化と暴力 ・競争と公正のスポーツ倫理 ・個人と自律のスポーツ倫理	スポーツと暴力の、歴史的背景から、事例等を提示して、スポーツ倫理的な視点から解説を交えて理解させる。	スポーツにおける暴力との成り立ちについて理解する。	配布資料
6	スポーツの制度化と暴力 ・スポーツと暴力のスポーツ倫理・勝者(強者)と敗者(弱者)のスポーツ倫理	スポーツはどのような過程を経て、現在の形態を持つに至ったのか、また、スポーツを制度化し、暴力をルール整備し排除に至ったのかをスポーツ倫理的な視点から解説を交えて理解させる。	今後、スポーツにおける暴力の問題について課題を示して理解する。	配布資料
7	スポーツとジェンダー ・スポーツとジェンダー ・リーダーシップが生起するスポーツ界から	男性主導で動いてきた体育・スポーツの歴史的背景から、事例等を提示して、スポーツ倫理学などの視点から解説を交えて理解させる。	スポーツ界全体の男性支配の問題点について課題を示して理解する。	配布資料
8	スポーツとジェンダー ・スポーツ教育、研究におけるジェンダー問題 ・学校体育に埋め込まれたジェンダーポリティクス	ジェンダーという概念の登場から生物学的な性と文化的な性、セクシャルティの視点から、今後、スポーツにおけるジェンダー問題克服の方策をスポーツ倫理的な視点から解説を交えて理解させる。	どのように進めれば、男女公平なスポーツ環境を得られるかを検討し、理解する。	配布資料
9	スポーツの意味変容とそのメカニズム ・スポーツ概念の意味変容・スポーツに関する代表的概念	民族フットボール(Ba')の、歴史的背景から、バー(Ba')の変容と変化要因を提示して、スポーツ教育学的な視点から解説を交えて理解させる。	スポーツの伝承・変容及びメカニズムについて考察し理解する。	配布資料
10	体育概念の確立 ・教育概念としての体育概念 ・体育概念の系譜	体育の概念と理念を、歴史的背景から、4つの歴史的位相を示して、スポーツ教育学的な視点から解説を交えて理解させる。	体育とは何かを、身体教育の意味を古代・近代・現代から問いかけ、理解する。	配布資料
11	現代スポーツへの考察(1) ・スポーツの現在を検証する ・スポーツの経営戦略を問う	「スポーツは、今どこにいるのか」また、「スポーツの現在を考える」をテーマにしディスカッションを行わさせる。	今後のスポーツの役割と課題について理解する。	配布資料
12	現代スポーツへの考察(2) ・いまの学校体育を考える ・学校運動部の現状と課題	「体育・スポーツを問うということ」また、「子ども・学校・教育を考える」をテーマにしディスカッションを行わさせる。	今後の体育・スポーツの役割と課題について理解する。	配布資料
13	現代スポーツへの考察(3) ・ジュニアスポーツの諸問題 ・藤井選手スポーツをどのように考えるか	「ジュニア・アスリート 問題の交点」また、「ジュニア・アスリートの早期育成が意味するもの」をテーマにしディスカッションを行わさせる。	今後のジュニア・アスリート育成の問題と課題について理解する。	配布資料
14	現代スポーツへの考察(4) ・スポーツ立国論のゆくえ・スポーツナショナリズムの変容	「スポーツ立国論をめぐって」また、「スポーツ立国論の可能性(座談会)」をテーマにしディスカッションを行わさせる。	今後のスポーツ立国戦略からスポーツ基本法への課題と展望について理解する。	配布資料
15	本授業のまとめ(総括と今後の体育科教育の課題)	授業全体を振り返り、履修者自身のスポーツ教育学についての考えをまとめ、ディスカッションを行わさせる。	それぞれが授業を通して学んだことを共有する。	配布資料
16	なし			

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
スポーツ教育学領域やスポーツ倫理学領域の中で各自が興味をもった問題意識を基盤に、文献収集、文献分析、調査等を行いながら、修士論文執筆のためのスキルを身につけていく。	「授業の取り組み」20% 「配布資料」20% 「プレゼン内容」20% 「討議への参加状況」40% 「レポート」・・・次授業において解説をする。	資料は電子ファイル及び紙媒体にて共有する。共有された資料は事前に目を通して内容を理解しておくこと。また、授業中に配布した資料はファイリングし、復習に活用し、質疑応答で回答が端的に応えられるように準備しておく。自習の総時間は50時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

「スポーツのいまを考える」(創文企画) 「教養としてのスポーツ科学」(大修館書店) 「教養としての体育原理—現代の体育・スポーツを考えるために」(大修館書店) 「体育の人間形成論」(大修館書店) 「体育・スポーツ科学概論」(大修館書店) 「現代スポーツ評論」(創文企画)

7. その他(履修の要件等)

特になし

体力トレーニング科学特講 Physical training science	相川貴裕	2年	前期	坂
		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

適切なトレーニングプログラムは、トレーニングの原理原則の応用に基づいて構成される。本講義では、トレーニング法とその背景となる理論、エビデンス、トレーニングプログラムの構築方法について学び、実践的なトレーニングに対する知識を深める。なお、本科目は本学科ディプロマ・ポリシー(2)に関連している。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	トレーニング科学とは	科学的視点に基づくトレーニングの必要性、授業内容や進め方について説明する。	トレーニング科学の必要性について理解する。	配布資料
2	筋系体力	筋系体力の構成要素、特性に関する基礎について解説する。	筋系体力の構成要素、特性に関する基礎について理解する。	配布資料
3	エネルギー系体力	エネルギー系体力の構成要素、特性に関する基礎について解説する。	エネルギー系体力の構成要素、特性に関する基礎について理解する。	配布資料
4	持久力とスポーツパフォーマンス	持久力とスポーツパフォーマンスに関する基礎について解説する。	持久力とスポーツパフォーマンスに関する基礎について理解する。	配布資料
5	筋力・パワーとスポーツパフォーマンス	筋力・パワーとスポーツパフォーマンスに関する基礎について解説する。	筋力・パワーとスポーツパフォーマンスに関する基礎について理解する。	配布資料
6	神経系とスポーツパフォーマンス	神経系とスポーツパフォーマンスに関する基礎について解説する。	神経系とスポーツパフォーマンスに関する基礎について理解する。	配布資料
7	アスレティックトレーニング(外科的疾患)	外科的疾患に対するアスレティックトレーニングの進め方について解説する。	外科的疾患に対するアスレティックトレーニングの進め方について理解する。	配布資料
8	アスレティックトレーニング(内科的疾患)	内科的疾患に対するアスレティックトレーニングの進め方について解説する。	内科的疾患に対するアスレティックトレーニングの進め方について理解する。	配布資料
9	アスレティックトレーニング(女性アスリート)	女性アスリートに対するアスレティックトレーニングの進め方について解説する。	女性アスリートに対するアスレティックトレーニングの進め方について理解する。	配布資料
10	成長期の体力・トレーニング	成長期の体力、トレーニングについて解説する。	成長期の体力・トレーニングについて理解する。	配布資料
11	各種スポーツの特異性	各スポーツ種目の特異性について解説する。	各スポーツ種目の特異性について理解する。	配布資料
12	無酸素性競技のトレーニング	無酸素性競技のトレーニングについて解説する。	無酸素性競技のトレーニングについて理解する。	配布資料
13	有酸素性競技のトレーニング	有酸素性競技のトレーニングについて解説する。	有酸素性競技のトレーニングについて理解する。	配布資料
14	トレーニングプログラムの立案・評価	トレーニングプログラムの立案・評価についてプレゼンテーション、ディスカッションをさせる。	トレーニングプログラムの立案・評価について理解し、実践する。	配布資料
15	トレーニングプログラムの応用	トレーニングプログラムの応用についてプレゼンテーション、ディスカッションをさせる。	トレーニングプログラムの応用について理解し、実践する。	配布資料
16				

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
体力トレーニングについて科学的に理解し、クライアントのニーズ、年齢、性別、各競技特性に合わせたトレーニングを計画・実践できるようになる。	情報収集および整理50%、研究発表およびディスカッション50%を評価対象とし、総合的に評価する。	授業時の配布資料、各自検索した資料、論文等を用いて復習をし、理解を深めること。 準備学習(予習・後習等)の具体的な内容及び必要な時間60時間以上。

6. 教科書・参考図書等

適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし。

教職専門実習 Teaching Professional Practice	松田 広 高田 康史 前田 一篤	1年	通年	坂
		2単位	選択	演習

1. 授業の目的(ねらい)

実際の教育活動に参加することによって、教員になるうえでの心構えと、教育活動に必要な教育知識と技術を身につけると同時に、その体験を通して自らの教育実践におけるテーマを探求することを目的とする。さらに、昨今の教育課題についても検討し、自らの実践と照らし合わせるといった教師のPDCAサイクルの本質を身につけることを目的とする。本科目は、人間健康学研究科のディプロマポリシー (2) に関連している。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	事前指導① 本授業の意義と目的	本授業の目的と方法（教職課程における本授業の位置付け）及び現場実習の意義（心構え）について理解する。	教師としての資質能力を確認する。	実習ノート 資料配布
2	事前指導② 生徒理解	生徒理解と生徒指導の意義と方法について理解し、自らの考えについてディスカッションを交えて検討する。	実習校の学校行事や学校教育方針及び生徒を理解する。	実習ノート 資料配布
3	事前指導③ 求められる教師像	教師として必要な知識技能についての省察をし、これまでの学びの振り返りをする。	学校現場で必要とされる知識技能の確認	実習ノート 資料配布
4	現場実習	朝会、授業、HR活動、生徒会活動、学校行事、クラブ活動などに参加し、教師の正課外での1週間の動きを理解する。	実習校の業務に参加し、事業運営について理解する。	実習ノート
5	現場実習	指導教員が担当する校務を観察し、事前指導時に検討した自らの指導観と照らし合わせながら検討する。	実習校の業務に参加し、校務について理解する。	実習ノート
6	実習の省察・振り返り①	観察を通して得た知見を省察して、自らの教育実践における課題を明確にする。	課題等を明確に、次の実習の準備ができる。	実習ノート 資料配布
7	現場実習	指導教員が担当する授業に参加し、振り返り①で確認した自身の教育実践における課題について検討する。	自らが考える課題について、教科指導の視点から検討する。	実習ノート
8	現場実習	指導教員が担当する校務に参加し、振り返り①で確認した自身の教育実践における課題について検討する。	自らが考える課題について、校務の視点から検討する。	実習ノート
9	現場実習	自身の教育実践における目標と計画の素案について検討する。	自らが考える課題について検討し、自らの教育実践について考える。	実習ノート
10	実習の省察・振り返り②	実習を省察し、現場実習を通して検討した自身の教育実践における目標と計画について立案する。	課題等を明確に、次の実習の準備ができる。	実習ノート 資料配布
11	現場実習	立案した授業における教育計画を実践し、その成果について検討する。	自らが立案した指導計画について、教科指導の視点から検討する。	実習ノート
12	現場実習	立案した校務における教育計画を実践し、その成果について検討する。	自らが立案した指導計画について、校務の視点から検討する。	実習ノート
13	現場実習	自らの教育実践の総括として、立案した教育計画の成果についてまとめる。	自らが立案した指導計画について検討し、その成果と課題について考える。	実習ノート
14	実習の省察・振り返り③	実習を通して得た知見をもとに、自ら検討した教育実践の成果と課題について検討し、まとめる。	これまでの課題検討を踏まえた反省ができる。	実習ノート 資料配布
15	事後指導① 現場実習を終えての反省	「教師像・教職観・学級経営力等からの今後の展望の具体化」	自己省察をし、今後の課題を明確にする。	実習ノート 資料配布
16	事後指導② 現場実習を終えての反省	「生徒理解、生徒指導、学習指導案作成と授業実践、成果と課題の明確化」	自己省察をし、今後の課題を明確にする。	実習ノート 資料配布

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
教師に必要な専門的知識や技能を修得し、現場実習で取り組む課題を明確化する。得られた成果と改善すべき点を明らかにしていき、実習を通じて把握された学校現場の保健体育科に関わる課題を踏まえて、自身の問題意識を明瞭にできる。	授業の成績 20% 現場実習校からの成績 40% 実習ノート 30% 及び巡回指導時の所見 10%	現場実習の実施あたり学んできた専門的な知識や技能を核に内容を整理し、現場実習ノート精度を高くして作成しておく。また、現場内容の復習をしておくこと。

6. 教科書・参考図書等

7. その他(履修の要件等)

実習期間は30時間以上とする。

アダプテッド・スポーツ科学特講 Adapted Sport Science	加地 信幸	1年	後期	坂
		2単位	必修	講義

1. 授業の目的(ねらい)

アダプテッド・スポーツとは、障がい者や高齢者、子どもあるいは女性等が参加できるように修正された、あるいは新たに創られた運動やスポーツ、レクリエーション全般を指しており、本来は1人1人の発達状況や身体条件に適応させたスポーツという意味である。本授業は、アダプテッド・スポーツを科学的に捉えて、対象となる人々の立場に立ったプログラム開発および実践ができる基礎力を養うことを目的とする。まず、定義や概念、対象となる人々の特性、関連分野との異同について解説を行う。その後、専門図書や学術論文を用いた文献講読、プレゼンテーション及び質疑応答を通して理解を深める。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(2)「健康・スポーツ・教育・福祉等を複合させた専門性の高い高度な理論・指導技法を修得し、多様化した社会における人間の健康に対して多角的にアプローチできる実践力を有する。」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	オリエンテーションおよびアダプテッド・スポーツの基礎	アダプテッドスポーツを科学的に捉え、専門的知識を身につけていくための基礎的な内容を幅広く理解させたうえで、具体的な授業全体の概要等を解説する。	授業全体の概要およびアダプテッド・スポーツの基礎的な内容を理解できる。	配布資料
2	アダプテッド・スポーツの定義、歴史および意義	アダプテッド・スポーツの定義、歴史および意義について解説し、学習者が自分の言葉で説明できる力が身につくよう解説する。	アダプテッド・スポーツについて理解し、自分の言葉で説明できる力を身につけることができる。	配布資料
3	指導者として必要な専門的知識と指導者にふまえてほしいこと	障害児者を中心としたアダプテッド・スポーツ指導者に必要な専門的知識を理解し、指導者にふまえてほしいことについて解説する。	指導者として必要な専門的知識と指導者にふまえてほしいことを説明できる。	配布資料
4	指導者として必要な専門的知識と支援の意義	障害児者を中心としたアダプテッド・スポーツ指導者に必要な専門的知識を理解し、支援の意義について解説する。	指導者として必要な専門的知識と支援の意義について説明できる。	配布資料
5	指導者として必要な専門的知識と発達を促す指導の重要性	障害児者を中心としたアダプテッド・スポーツ指導者に必要な専門的知識を理解し、発達を促す指導の重要性について解説する。	指導者として必要な専門的知識と発達を促す指導の重要性について説明できる。	配布資料
6	アダプテッド・スポーツ指導の現状	障害児者を中心としたアダプテッド・スポーツ指導の現状を先行研究等から調査し、その内容のプレゼンテーションおよび質疑応答を行い解説する。	アダプテッド・スポーツ指導の現状について理解できる。	論文および配布資料
7	アダプテッド・スポーツ指導事例の実際と教材開発	地域で定期的に行われている障害児者を対象としたアダプテッド・スポーツ指導の事例の実際と教材開発を解説する。	アダプテッド・スポーツ指導事例の実際と教材開発について理解できる。	論文および配布資料
8	アダプテッド・スポーツ指導の検討・整理	障害児者を対象としたアダプテッド・スポーツ指導に係る先行研究を検討・整理し、その内容のプレゼンテーションおよび質疑応答を行い解説する。	先行研究を検討・整理し、理解したことを解説できる。	論文および配布資料
9	アダプテッド・スポーツ指導に係る実践研究課題の設定	アダプテッド・スポーツ指導に係る実践について、明らかにしたい研究内容を先行研究等から検討し、研究題目を設定できるよう解説する。	アダプテッド・スポーツ指導に係る研究題目の設定ができる。	論文および配布資料
10	試行的アダプテッド・スポーツプログラムの考案・計画	学習者が考案・計画した試行的アダプテッド・スポーツプログラムについて先行研究等を参考に検討し、課題を明確にしたうえで指導する。	試行的アダプテッド・スポーツプログラムの考案・計画ができる。	論文および配布資料
11	試行的アダプテッド・プログラム実践に係る検討	学習者が考案・計画した試行的アダプテッド・スポーツプログラムについて再度検討し、課題を明確にしたうえで指導する。	試行的アダプテッド・プログラム実践に係る検討ができる。	論文および配布資料
12	試行的アダプテッド・プログラムの実施	学習者が考案・計画した試行的アダプテッド・スポーツプログラムを実施し、課題を明確にしたうえで指導する。	試行的アダプテッド・プログラムの実施ができる。	配布資料
13	試行的アダプテッド・プログラムに係る検証	学習者が考案・計画し、実施した試行的アダプテッド・スポーツプログラムについて検証し、課題を明確にしたうえで指導する。	試行的アダプテッド・プログラムに係る検証ができる。	論文および配布資料
14	試行的アダプテッド・プログラムに係る研究成果発表	学習者が考案・計画し、実施した試行的アダプテッド・スポーツプログラムに係る研究成果を発表し、ディスカッションによる指導する。	試行的アダプテッド・プログラムの研究成果を発表し、成果・課題の把握ができる。	配布資料
15	授業の振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、ディスカッションを用いてより専門的なアダプテッド・スポーツについて理解を深めるよう講義する。	授業全体像を振り返り、必要な専門的知識と実践的スキルを説明ができる。	配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
アダプテッド・スポーツを科学的に捉え、身につけた高度な専門的知識を基に、対象者の実態に応じてルールや用具等を工夫した指導ができる力を習得する。そのうえで、生涯にわたってアダプテッド・スポーツ実践および研究を継続できる力を身につける。	授業内課題 (60%) レポート (40%)	ディスカッション、プレゼンテーションを活用した双方向の講義を展開する。C-Learningシステム等を用いた予習・復習等を定着させる。自学習の総時間は60時間以上を確保するものとする。

6. 教科書・参考図書等

教科書は使用せず、適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

障害福祉学特講 Lecture on Disability Studies	河野 喬	1年	前期	坂
		2単位	必修	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本授業の目的は、障がいを科学的に捉えて、対象となる人々の実情に則した支援を開発する力を養うことにある。まず、定義や概念、対象となる人々の特性、関連分野との関連について解説を行う。その後、専門図書や学術論文を用いた文献講読、プレゼンテーション及び質疑応答を通して理解を深める。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(2)「健康・スポーツ・教育・福祉等を複合させた専門性の高い高度な理論・指導技法を修得し、多様化した社会における人間の健康に対して多角的にアプローチできる実践力を有する。」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	イントロダクション、障害とは何か	本授業の概要、到達目標、単位認定方法、進め方、及び履修上の注意について説明を受け、障害及び障害者という呼称の由来について講義する。	授業の全体像が把握できる。	配布資料
2	障害の定義	障害の定義について、近年の研究動向を併せて解説する。	障害の定義を複眼的に説明できる。	配布資料
3	障害に関連する概念	前回に続き、障害の定義(国際生活機能分類等)、障害者の法概念(障害者権利条約等)についての詳細を解説する。	障害の定義及び障害者の権利の歴史の変遷を説明できる。	配布資料
4	リハビリテーション及びノーマライゼーション	障害福祉学研究におけるリハビリテーション及びノーマライゼーション理念の内容と位置づけを解説する。	リハビリテーション及びノーマライゼーション理念について説明できる。	配布資料
5	障害に対するアプローチ	障害のある人に対するアプローチを、医学モデル、社会モデル、相互作用モデルの観点から具体的に解説する。	左記モデルの具体例について説明できる。	配布資料
6	障害と特別支援教育	障害を、体育及び特別支援教育の観点から解説する。	特別支援教育の意義が説明できる。	配布資料
7	障害とアダプテッド・スポーツ	障害を、アダプテッド・スポーツの観点から解説する。	アダプテッド・スポーツについて説明できる。	配布資料
8	障害と労働	障害を、労働及び雇用保障の観点から解説する。	障害者雇用法制の概要が説明できる。	配布資料
9	障害と暮らし	障害を、地域生活支援の観点から解説する。	障害者地域生活支援の意義が説明できる。	配布資料
10	障害科学研究の文献講読(1)障害学	障害学に関する文献を解説し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答によって学ばせる。	購読した文献について要約し、理解を深めることができる。	論文及び配布資料
11	障害科学研究の文献講読(2)特別支援教育	特別支援教育に関する文献を解説し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答によって学ばせる。	購読した文献について要約し、理解を深めることができる。	論文及び配布資料
12	障害科学研究の文献講読(3)健康支援	障害者を対象とした健康支援に関する文献を解説し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答によって学ばせる。	購読した文献について要約し、理解を深めることができる。	論文及び配布資料
13	障害科学研究の文献講読(4)福祉及び社会参加	障害者を対象とした福祉及び社会参加に関する文献を解説し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答によって学ばせる。	購読した文献について要約し、理解を深めることができる。	論文及び配布資料
14	障害科学研究の文献講読(5)共生社会、ICT	障害者を対象とした共生社会(地域共生社会)、ICT活用等に関する文献を解説し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答によって学ばせる。	購読した文献について要約し、理解を深めることができる。	論文及び配布資料
15	授業の振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、ディスカッションを用いて理解を深めさせる。	本授業の全体像を説明することができる。	論文及び配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
当事者性の尊重、科学的な根拠の重視、創意工夫の必要性が認識でき、障害のある人の暮らしを支え、社会参加を促進し、社会変革につながる直接・間接的な働きかけができる人材に成長する。	1) レポート 60% 2) プレゼンテーション 40%	1) アクティブラーニングによる能動的学修を重視し、C-Learningシステム等を用いて予習又は反転学修の資料を提供する。 2) 自学習の総時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

教科書は使用せず、適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし。

地域福祉実践特講 Practice of Community Welfare	鶴岡 和幸	1年	後期	坂
		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本講義では、地域福祉の現状と課題について把握し、理解を深めていく。とくに地域福祉課題の協働による解決方法、その担い手形成に焦点を当て講義を進める。地域福祉に関する報告書や文献・事例から検討を行い、地域福祉課題を解決するために必要な知識と具体的施策の提案を行える技術の修得を目的とする。なお、本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー (3) 「地域社会のスポーツ振興及び健康づくりに寄与し、かつ、国内外を問わず積極的に活動の場を広げる意欲を有する。」に関連している。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	地域福祉理論と授業の進め方	本講義の進行方法を説明し、地域福祉理論の歴史について講義する	本講義の進め方と地域福祉理論史について理解する	テキストおよび配布資料
2	村落的な生活様式と都市的な生活様式	地縁関係による互助的地域福祉活動の成立根拠、またそれが弱体化していく理由について講義する。	地縁関係による地域福祉実践について理解する。	テキストおよび配布資料
3	ボランティア論	地域福祉実践であるボランティア活動の公益性、無償性、自発性の要素が、支援者、利用者が互いの共同関係を選び取ることで成立し、またそれを認めやすいように社会構造が展開したことを講義する。	ボランティア（アソシエーション）による地域福祉実践について理解する。	テキストおよび配布資料
4	災害ソーシャルワーク	被災地のコミュニティ再生には住民の組織化だけでなく、様々な要素が重層的に重なる必要がある。住民による組織化を取上げ、その仕組みなどについて講義する。	災害ソーシャルワークの展開による地域福祉実践について理解する	テキストおよび配布資料
5	コミュニティ施策の歴史 (1)	地縁団体、アソシエーション（市民活動・ボランティア・NPO）、行政の地域福祉実践の接合を図るコミュニティ施策について講義する。	1970年代からのコミュニティ施策について理解する。	テキストおよび配布資料
6	コミュニティ施策の歴史 (2)	地縁団体、アソシエーション（市民活動・ボランティア・NPO）、行政の地域福祉実践の接合を図るコミュニティ施策について講義する。	近年のコミュニティ施策について理解する。	テキストおよび配布資料
7	担い手育成事例 (1) 民生委員	家族と全体社会を媒介する民生委員が、自らの主体性ととも、なお地域社会から生まれ、地域社会に支えられることで機能することを講義する。	民生委員の活動を通して、地縁関係に支えられる担い手育成を理解する。	テキストおよび配布資料
8	担い手育成事例 (2) 子ども活動・子育て支援NPO	子ども活動・子育て支援NPOの事例を取り上げ、担い手がつくり出され、主体性が維持される組織的構造について講義する。	アソシエーションにおける担い手育成について理解する。	テキストおよび配布資料
9	担い手育成事例 (3) ワークショップという技術	ワークショップ手法による住民の「地区まちづくり計画」策定を取り上げ、ワークショップが共同のリアリティを生むことで、担い手育成につながることを講義する。	ワークショップ手法による担い手育成について理解する。	テキストおよび配布資料
10	担い手育成事例 (4) 当事者の生活を支えるコミュニティ	精神障害者の生活を支えるコミュニティの形成は、地域福祉課題になっている。ACTなどの組織化を取り上げ、活動の必要性、仕組みについて講義する。	精神障害者およびその家族の地域生活を支えるコミュニティの形成について理解する。	テキストおよび配布資料
11	担い手育成事例 (5) 防災コミュニティ	防災コミュニティの形成は、阪神・淡路大震災以降重要な地域福祉課題になっている。住民による防災活動の組織化を取り上げ、活動の必要性、仕組み、担い手発掘について講義する。	住民による防災コミュニティの形成について理解する。	テキストおよび配布資料
12	担い手育成事例 (6) 住民による見守り活動 (訪問型)	見守りは地域福祉の喫緊の課題である。訪問型の高齢者見守り活動を取り上げ、活動の必要性、仕組み、担い手発掘について講義する。	住民による見守り活動、その組織化について理解する。	テキストおよび配布資料
13	担い手育成事例 (7) 住民による見守り活動 (サロン型)	見守りは地域福祉の喫緊の課題である。サロン型の高齢者見守り活動を取り上げ、活動の必要性、仕組み、担い手発掘について講義する。	住民による見守り活動、その組織化について理解する。	テキストおよび配布資料
14	担い手育成事例 (7) 外国人住民支援	外国人住民への支援は現在の重要な地域福祉課題になっている。やさしい日本語、地域日本語教室、自治会の取り組みなどを紹介し、多文化共生について講義する。	地域社会における多文化共生の取り組み、その担い手について理解する。	テキストおよび配布資料
15	授業の振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、ディスカッションを用いて理解を深める。	授業全体を振り返り、特に地域福祉の担い手育成を進めるための専門的知識について理解する。	なし
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
1. 地域福祉の現状と課題、とくに担い手育成の課題を理解し、具体的な支援を提案もしくは展開することができる。 2. 家族・地域社会・全体社会（行政）の協働（協働による地域福祉）を理解する。	1) レポート 45% 2) ディスカッション 25% 3) プレゼンテーション準備 15% 4) プレゼンテーション内容 15%	・原則として、授業終了時に次回の授業に必要な資料・課題をC-Learning等を用いて提示・配布する。準備した上で講義へ参加すること。 ・本講義における予習・復習の総時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

教科書：教科書は使用しない。資料を配布する。
参考図書：授業中に適宜紹介する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

児童・家庭福祉論特講 Child and family welfare	磯邊 省三	1年	後期	坂
		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

児童相談所等の勤務経験を持つ職員が、実務経験を十分に活かし、実践的な授業を行い、児童・家庭福祉を深く理解する。次代を担う児童への期待は少子・超高齢社会の到来により、大きく変わる反面、児童が育つ環境は、家庭基盤の希薄、母親の孤立が目立ち、児童福祉の領域は、児童と家庭福祉の領域となってきた。本授業では、現代の児童と家庭福祉の現状について科学的に捉えて、対象となる子どもたちの立場に立った支援の開発ができる実践力を育むことを目的とする。まず、定義や概念、対象となる子ども、家庭、地域の状態、関連分野との異同について解説を行う。その後、専門書籍、公式資料、及び学術論文を用いた文献講義を行い、プレゼンテーション及び質疑応答を通して理解を深める。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(2)「健康・スポーツ・教育・福祉等を複合させた専門性の高い高度な理論・指導技法を修得し、多様化した社会における人間の健康に対して多角的にアプローチできる実践力を有する。」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	児童・家庭福祉と人間健康学	子どもを取り巻く社会の変容に対して、人間健康学による課題解決アプローチについて具体的に学ぶ。	児童・家庭福祉と人間健康学の関連について考える。	公式資料、論文など
2	児童・家庭の生活実態(1)子ども家庭福祉の視点	現代社会の子ども家庭の問題、不登校、非行、いじめ、家庭内暴力、児童虐待等について実例を挙げ、グループディスカッションを行う。	子ども虐待等具体的な子ども問題の本質について説明できる。	公式資料、論文など
3	児童・家庭の生活実態(2)青少年育成	青少年育成、子育てのニーズ、子ども家庭福祉に必要なとされる配慮等について実例を挙げ、子どもの育ち、子育てに真に必要なことは何かを考える。	仕事と生活の調和、保育サービス等具体的なニーズについて説明できる。	公式資料、論文など
4	児童の定義と理解	子どもの特性と発達ニーズ、子どもの年齢と法制度、子ども家庭福祉の理念について実例を挙げ、児童の権利について理解する。	児童の権利について説明できる。	公式資料、論文など
5	児童・家庭福祉制度の発展過程、児童福祉法の成立	児童福祉の発展、子ども家庭福祉の法体系について実例を挙げ、児童福祉の歴史的経過や法体系について理解する。	児童・家庭福祉制度の発展過程について説明できる。	公式資料、論文など
6	児童・家庭福祉制度における組織等(1)児童相談所を中心に	子ども家庭福祉の実施体制、行政機関と関連機関、児童福祉施設等について実例を挙げ、児童相談所や児童養護施設等の役割や機能を理解する。	児童相談所や児童養護施設の役割や機能について説明できる。	公式資料、論文など
7	児童・家庭福祉制度における組織等(2)専門職の役割と実際	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際について、所属する団体や関連機関との関係から理解する。	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際について説明できる。	公式資料、論文など
8	児童・家庭福祉制度における組織等(3)多職種連携の必要性	児童・家庭福祉制度における多様な職種連携、ネットワーキングと実際について理解する。	児童・家庭福祉における多職種連携、ネットワーキングについて説明できる。	公式資料、論文など
9	母子保健法の意義、難病・障害のある子どもをどのようにして支援するか	母子保健、障害・難病のある子どもと家族への支援について実例を挙げ、支援のための原理や方法について理解する。	母子保健の流れと課題、障害・難病のある子どもへの支援について説明できる。	公式資料、論文など
10	児童・家庭への経済的支援	子ども家庭福祉の財政、子ども家庭福祉の専門職、苦情解決と権利擁護について実例を挙げ、各専門職の役割、権利擁護の必要性について理解する。	子ども家庭福祉の財政・専門職・権利擁護の機能、仕組みについて説明できる。	公式資料、論文など
11	子育て支援に関連する法制度	子育て支援に関連する法規について、実例を挙げ、これまでの具体的な子育て支援策、ひとり親家庭の支援策をグループディスカッションをする。	子育て支援策、ひとり親家庭の支援策の理念と具体策について説明できる。	公式資料、論文など
12	社会的養護の意味	児童の社会的養護サービス、社会的養護の歴史、機関・施設の役割、制度について実例を挙げ、社会的養護の実態の把握と対応について理解する。	要保護児童や施設処遇の実態、里親等の制度について説明できる。	公式資料、論文など
13	非行児、情緒障害児の支援	非行児・情緒障害児への支援、非行児とその家庭の支援、情緒障害児とその家庭の支援について実例を挙げ、非行児や情緒障害児の対応策を理解する。	情緒障害児や非行児の福祉的支援、非行児の少年保護司法の仕組みについて説明できる。	公式資料、論文など
14	児童及び母子への支援	児童虐待、売春、DVについて実例を挙げ、児童虐待等の対策をグループディスカッションをする。	児童虐待等の個人的要因、社会的要因等を理解し、根絶策について説明できる。	公式資料、論文など
15	学修の振り返り	障害の有無、年齢に関わらず、健康に関する諸問題の解決をめざす人間健康学の立場から、児童・家庭福祉全般と学修全体の振り返りを行う。	児童・家庭福祉と人間健康学の関連について説明できる。	公式資料、論文など
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
支援及び配慮を必要とする子どもの視点に立ち、併せて人間健康学の立場から、子どもの健康と福祉に関する諸問題の解決に向けた工夫や配慮について具体的に提案できる。	1) レポート 60% 2) プレゼンテーション 40%	1) アクティブラーニングによる能動的学修を重視し、C-Learningシステム等を用いて予習又は反転学修の資料を提供する。 2) 自学習の総時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

適宜、公式資料、論文等を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし。

社会福祉実践特講 Practice of Social Welfare	澤屋 真樹	1年	前期	坂
		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本講義では、社会福祉とその周辺領域について、社会学の視点も取り入れながら理解を進めていく。ソーシャルワーカーとしての体験や、その他の立場からのソーシャルアクション（社会活動）事例を踏まえながら、社会福祉の原理と実践における理念について具体的に表現することを目指す。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(3)「地域社会のスポーツ振興及び健康づくりに寄与し、かつ、国内外を問わず積極的に活動の場を広げる意欲を有する」に関連している。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	社会福祉が登場した時代及び、社会背景について	歴史的に社会福祉がなぜ、登場したのかについて概観する	社会福祉の歴史を知る	配布資料
2	戦後日本の社会福祉理論（政策論、技術論、固有論、統合論）	日本の社会福祉を知るうえで、必要な理論を概観する	社会福祉固有の理論について知る	配布資料
3	戦後日本社会福祉理論（運動論、経営論、L字型構造）	現代の社会福祉に繋がる理論を概観する	現在の社会福祉に繋がる理論について知る	配布資料
4	社会福祉に関連する思想について	社会福祉に影響を及ぼす思想について学ぶ	ジェンダーやソーシャルインクルージョンなどの理解を深める	配布資料
5	社会問題について	社会福祉の対象となる社会問題について学ぶ	具体的な課題について考える	配布資料
6	新しい社会問題について	ヴァネラビリティーやニューリスクなどの新しい社会問題について触れる	新しい社会問題の存在を知る	配布資料
7	ケアの倫理について知る	比較的新しい、社会福祉や看護、医療にかかわる倫理について学ぶ	新しいケアの価値について知る	配布資料
8	対人援助における方言の効用・有益性について 実践方言学の世界	被災地で活動した医療・福祉関係者へのアンケート調査によれば、約80%が方言が分かるとうるやだと回答している。対人援助における方言の効用・有用性について考える。	実践方言学という学問を知り、対人援助への効用や有益性について学ぶ。	配布資料
9	障害をもつ学生の無年金問題裁判とその解決	学生の国民年金加入が任意であった時期に国民年金未加入の状態に障害を負ったため、障害基礎年金が受給できなかった人々の所得保障を求めた裁判活動について学ぶ。	無年金障害者の裁判活動が制度の拡大に繋がったことを知る。	配布資料
10	社会福祉援助としての文化芸術活動とは 社会包摂機能としての可能性	障害者の文化芸術活動における社会包摂機能の可能性について社会福祉分野での具体的な事例をもとに考える。	文化芸術活動に対して社会福祉分野からのアプローチを試みる。	配布資料
11	依存的自立と当事者研究	具体的な当事者研究から見えてくる「依存的自立」について考える。	「依存的自立」について理解する	配布資料
12	被災地域の子供の気持ちに寄り添う地域福祉活動	被災地域の小中学生から災害の思い出を文字や絵で募集し、紙芝居制作・上演を行った事例から、地域福祉を考える。	地域住民の主体的な活動から地域福祉を理解する。	配布資料
13	社会の課題の抽出その解決・緩和	社会の課題をデータ・文献・報道などから抽出し、その解決や緩和をどのように行えるかを、ソーシャルアクションの視点で考える。	データ・文献・報道などの活用で問題を抽出し考察する。	学生が提出する資料
14	課題解決への提案	抽出した問題、解決・緩和策などを発表し、その内容についてディスカッションする	発表・ディスカッション	学生が提出する資料
15	まとめ	授業を通して考えたことをまとめ、振り返る	まとめと振り返り	なし
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
1. 社会福祉の理論や思想への理解を深める 2. 具体的な実践を通して、日本の社会福祉とその周辺領域への理解を深める 3. 自身の考える社会課題を抽出し、解決策を考えることができる。	1. ディスカッション 50% 2. プレゼンテーション 50%	ディスカッションやプレゼンテーションを活用した双方向の授業を行う。特に学生が自分の意見を述べることを重視する。自学習の総時間は60時間以上を確保するものとする。

6. 教科書・参考図書等

7. その他(履修の要件等)

医療福祉実践特講 Medical welfare practice	五百竹 亮丞	2年	前期	坂
		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

ソーシャルワーカーは古くから医療領域での実践を積み重ねてきた。しかし医療現場は医療職が主体であり、ソーシャルワーカーのホームグラウンドではない。では、医療現場でソーシャルワーカーに求められている専門性は何なのだろうか。この授業では、医療福祉実践における様々な事例についてフィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッションで検討し、多角的な理解の深化を図る。なお本科目はディプロマ・ポリシー(2)「健康・スポーツ・教育・福祉等を複合させた専門性の高い高度な理論・指導技法を修得し、多様化した社会における人間の健康に対して多角的にアプローチできる実践力を有する。」に関連している。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	オリエンテーション	本科目の概要を説明する。	授業方法、求められる知識について理解できること。	配布資料
2	医療ソーシャルワークとは	医療ソーシャルワークの歴史および変遷について講義する。	医療ソーシャルワークの歴史・変遷について学習する	配布資料
3	医療組織におけるソーシャルワーカー	医療組織とソーシャルワーカーの関係を組織論から読み解かせる。	組織行動論について学習する	配布資料
4	医療における多職種連携	多職種連携の利点・課題について講義する。	様々なチーム医療の形・利点・課題を学習する	配布資料
5	患者の権利とその擁護	意思決定モデルと生命倫理について講義する。	権利擁護を臨床倫理等を通して学習する	配布資料
6	自己決定・意思決定支援	パターンリズムとジレンマについて講義する。	患者の権利擁護とジレンマについて学習する	配布資料
7	保健医療ソーシャルワーク	医療機関と地域の連携について講義する。	ミクロ・メゾ・マクロ視点で保健医療ソーシャルワーク実践を学習する	配布資料
8	エビデンスベースドアプローチ	社会調査・ソーシャルアクションについて講義する。	根拠・理論に基づく実践について学習する	配布資料
9	社会資源活用	インフォーマル・サポート、フォーマル・サービス、社会資源活用による支援・連携について講義する。	具体的な事例からどのような社会資源の活用ができるかを学習する	配布資料
10	ICTの活用	医療ソーシャルワーク実践におけるICT化について講義する。	医療ソーシャルワーカーに求められるICT技術について学習する	配布資料
11	ディスカッション	AIはMSWになれるのか?についてディスカッションを行わせる。	AIとの対比からMSWに求められる支援技術を学習する	配布資料
12	医療ソーシャルワーク実践における課題整理	プレゼンテーションのテーマ設定・内容の整理について講義する。	学習した内容から各自がテーマを設定し課題を整理する	配布資料
13	多角的にソーシャルワーク実践を捉える	医療ソーシャルワーク実践における現状・問題・課題を多角的に検討させる。	各自が選択したテーマに沿って医療ソーシャルワークを読み解く学習をする	配布資料
14	プレゼンテーション	プレゼンテーション・ディスカッションを行わせる。	プレゼンテーション及びディスカッションをとおして理解の深化を図る	配布資料
15	授業の振り返り	授業の振り返りと、まとめを行う。	授業を振り返るディスカッションを行い、ソーシャルワーク実践をまとめる	配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
(1)医療ソーシャルワーカーの歴史・変遷を理解することができる (2)チーム医療における組織内の葛藤などの課題・問題を理解することができる (3)医療ソーシャルワーク実践をエビデンスに基づいて具体的に理解することができる	1) レポート 60% 2) プレゼンテーション・ディスカッション 40%	1) アクティブラーニングによる能動的学修。 2) 自学習の総時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

教科書は使用せず、適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

人間健康学特別研究 I	加地信幸, 河野喬, 武田守弘, 東川安雄, 房野真也, 松田広, 和田正信, 相川貴裕, 鬼塚純玲, 高田康史, 升本絢也, 松尾晋典, 森木吾郎, 前田一篤, 五百竹亮丞, 澤屋真樹	1年	前期	坂郷原
Special Study on Human Health I		2単位	必修	演習

1. 授業の目的(ねらい)

研究倫理について説明したのち、人間健康学の特定分野に焦点を当て、各テーマに基づいた研究実施及び論文指導を行う。自身のテーマについてどのような先行研究がどのような方法ですすめられてきたかについて講義する。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解し、先行研究を精査する方法を享受する。また、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数値処理のソフトウェアの使用法を解説する。従ってこの授業は1年次に配当し、かつ必修科目として位置付ける。

なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(1)「自ら探求心を持ち、人間健康学分野における種々の課題を認識することができ、根拠に基づいた理論的な思考・指導・行動ができる」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	オリエンテーション 研究倫理及び修士研究の進め方	研究倫理を説明したのち、研究の進め方について理解させる。	本講義の内容及び進行方法について理解する。	論文及び配布資料
2	文献レビュー①	研究テーマに関する論文を要約させ、理解させる。	研究テーマに関する論文を要約し理解する。	論文及び配布資料
3	文献レビュー②	研究テーマに関する論文を要約させ、理解させる。	研究テーマに関する論文を要約し理解する。	論文及び配布資料
4	文献レビュー③	研究テーマに関する論文を要約させ、理解させる。	研究テーマに関する論文を要約し理解する。	論文及び配布資料
5	文献レビュー④	研究テーマに関する論文を要約させ、理解させる。	研究テーマに関する論文を要約し理解する。	論文及び配布資料
6	文献レビュー⑤	研究テーマに関する論文を要約させ、理解させる。	研究テーマに関する論文を要約し理解する。	論文及び配布資料
7	文献レビュー⑥	研究テーマに関する論文を要約させ、理解させる。	研究テーマに関する論文を要約し理解する。	論文及び配布資料
8	研究計画の作成①	方法論を検討させる。	方法論を検討し、研究計画を作成する。	論文及び配布資料
9	研究計画の作成②	方法論を検討させる。	方法論を検討し、研究計画を作成する。	論文及び配布資料
10	研究計画の作成③	方法論を検討させる。	方法論を検討し、研究計画を作成する。	論文及び配布資料
11	予備実験・予備調査のデータ分析①	予備実験・予備調査を計画し、実施し、データを解析することで、研究の問題点を検討させる。	予備実験・予備調査を計画、実施、データ解析することで、問題点を理解する。	論文及び配布資料
12	予備実験・予備調査のデータ分析②	予備実験・予備調査を計画し、実施し、データを解析することで、研究の問題点を検討させる。	予備実験・予備調査を計画、実施、データ解析することで、問題点を理解する。	論文及び配布資料
13	予備実験・予備調査のデータ分析③	予備実験・予備調査を計画し、実施し、データを解析することで、研究の問題点を検討させる。	予備実験・予備調査を計画、実施、データ解析することで、問題点を理解する。	論文及び配布資料
14	予備実験・予備調査のデータ分析④	予備実験・予備調査を計画し、実施し、データを解析することで、研究の問題点を検討させる。	予備実験・予備調査を計画、実施、データ解析することで、問題点を理解する。	論文及び配布資料
15	まとめ	データの解析結果から修士論文の方向性を定めさせる。	データの解析結果から修士論文の方向性を定める。	論文及び配布資料
16				

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
人間健康学に関する研究論文を理解することができる。 研究課題を見出し、課題解決の方法を考えることができる。 研究をデザインし、計画することができる。	1) 授業中の発表、討論 50% 2) 自主的学習(予習・復習など) 30% 3) プレゼンテーション資料作成 10% 4) プレゼンテーション及び質疑応答 10%	各授業の前に、関連する分野の資料や論文を検索し、授業の前に読んでおくこと。また、授業時には各自が検索した資料や論文を持参し、ディスカッション等に利用する。授業時に記録したノートや配布資料を用いて復習すること。自学習の時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書

適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

人間健康学特別研究 II	加地信幸, 河野喬, 武田守弘, 東川安雄, 房野真也, 松田広, 和田正信, 相川貴裕, 鬼塚純玲, 高田康史, 升本絢也, 松尾晋典, 森木吾郎, 前田一篤, 五百竹亮丞, 澤屋真樹	1年	後期	坂郷原
Special Study on Human Health II		2単位	必修	演習

1. 授業の目的(ねらい)

人間健康学の特定分野に焦点を当て研究の実践、指導を行い、各テーマに基づいた論文指導を行う。
自身のテーマについて先行研究がどのような方法ですすめられてきたかについて問題提起する。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解するため、先行研究を提示する。また、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数値処理のソフトウェアの運用を享受する。また、学会発表を通して伝え方のスキルを身につけ、データ整理、分析能力を養う。従ってこの授業は1年次に配当し、かつ必修科目として位置付ける。
なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(1)「自ら探求心を持ち、人間健康学分野における種々の課題を認識することができ、根拠に基づいた理論的な思考・指導・行動ができる」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	オリエンテーション 修士論文の作成計画について	本講義の内容及び進行方法について説明する。	本講義の内容及び進行方法について理解する。	論文及び配布資料
2	研究計画の発表	研究テーマに関する文献調査から行った前期の発表についての検討結果を発表させる。	文献調査から行った前期の発表についての検討結果を発表し理解する。	論文及び配布資料
3	研究方法の再検討①	前期の発表についての検討結果について討議させる。	前期の発表についての検討結果について討議する。	論文及び配布資料
4	研究方法の再検討②	前期の発表についての検討結果について討議させる。	前期の発表についての検討結果について討議する。	論文及び配布資料
5	研究方法の再検討③	データ収集方法およびデータ解析について決定させる。	データ収集方法およびデータ解析について決定する。	論文及び配布資料
6	データ収集・報告①	データ収集状況・解析方法について報告させる。	データ収集状況・解析方法について検討し報告する。	論文及び配布資料
7	データ収集・報告②	データ収集状況・解析方法について報告させる。	データ収集状況・解析方法について検討し報告する。	論文及び配布資料
8	データ収集・報告③	データ収集状況・解析方法について報告させる。	データ収集状況・解析方法について検討し報告する。	論文及び配布資料
9	研究経過の発表①	データ収集状況・解析結果について進捗状況をプレゼンテーションさせる。	データ収集状況・解析結果について進捗状況をプレゼンテーションする。	論文及び配布資料
10	学会発表準備①	背景・方法・結果をまとめ、学会発表申し込みの準備を進めさせる。	背景・方法・結果をまとめ、学会発表申し込みの準備を進める。	論文及び配布資料
11	文献レビュー①	研究テーマに関する論文を要約させ、理解させる。	研究テーマに関する論文を要約し、理解する。	論文及び配布資料
12	文献レビュー②	研究テーマに関する論文を要約させ、理解させる。	研究テーマに関する論文を要約し、理解する。	論文及び配布資料
13	学会発表準備②	プレゼンテーションを練習させる。	プレゼンテーションを練習する。	論文及び配布資料
14	学会発表準備③	プレゼンテーションを練習させる。	プレゼンテーションを練習する。	論文及び配布資料
15	まとめ	学会発表を行わせる。	学会発表を行う。	論文及び配布資料
16				

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
人間健康学に関する研究論文を理解することができる。 研究課題を見出し、課題解決の方法を考えることができる。 研究をデザインし、計画することができる。 学会で発表することができる。	1) 授業中の発表、討論 30% 2) 自主的学習(予習・復習など) 10% 3) プレゼンテーション資料作成 30% 4) プレゼンテーション及び質疑応答 30%	各授業の前に、関連する分野の資料や論文を検索し、授業の前に読んでおくこと。また、授業時には各自が検索した資料や論文を持参し、ディスカッション等に利用する。授業時に記録したノートや配布資料を用いて復習すること。自学習の時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書

適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

人間健康学特別研究Ⅲ	加地信幸, 河野喬, 武田守弘, 東川安雄, 房野真也, 松田広, 和田正信, 相川貴裕, 鬼塚純玲, 高田康史, 升本絢也, 松尾晋典, 森木吾郎, 前田一篤, 五百竹亮丞, 澤屋真樹	2年	前期	坂郷原
Special Study on Human Health Ⅲ		2単位	必修	演習

1. 授業の目的(ねらい)

人間健康学の特定分野に焦点を当て研究の実践、指導を行い、各テーマに基づいた論文指導を行う。
 自らの研究テーマに焦点を絞り、実験、調査、文献研究を通して、各自の設定した問いに対して探究する。また、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数値処理のソフトウェアを使用し分析し結果を導き出す。また、学会発表を通して伝え方のスキルを身につけ、データ整理、分析能力を養う。従ってこの授業は2年次に配当し、かつ必修科目として位置付ける。
 なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(1)「自ら探求心を持ち、人間健康学分野における種々の課題を認識することができ、根拠に基づいた理論的な思考・指導・行動ができる」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	データ分析に関するディスカッション①	データ分析に関するディスカッションを行わせる。	データ分析に関するディスカッションを行い内容を理解する。	論文及び配布資料
2	データ分析に関するディスカッション②	データ分析に関するディスカッションを行わせる。	データ分析に関するディスカッションを行い内容を理解する。	論文及び配布資料
3	データ分析に関するディスカッション③	データ分析に関するディスカッションを行わせる。	データ分析に関するディスカッションを行い内容を理解する。	論文及び配布資料
4	データ分析に関するディスカッション④	データ分析に関するディスカッションを行わせる。	データ分析に関するディスカッションを行い内容を理解する。	論文及び配布資料
5	ディスカッション・修士論文作成①	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
6	ディスカッション・修士論文作成②	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
7	ディスカッション・修士論文作成③	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
8	ディスカッション・修士論文作成④	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
9	ディスカッション・修士論文作成⑤	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
10	ディスカッション・修士論文作成⑥	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
11	ディスカッション・修士論文作成⑦	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
12	ディスカッション・修士論文作成⑧	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
13	ディスカッション・修士論文作成⑨	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
14	ディスカッション・修士論文作成⑩	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
15	ディスカッション・修士論文作成⑪	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
16				

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
人間健康学に関する研究論文を理解することができる。 研究課題を見出し、課題解決の方法を考えることができる。 研究をデザインし、計画することができる。 学会で発表することができる。	1) 授業中の発表、討論 30% 2) 自主的学習(予習・復習など) 10% 3) プレゼンテーション資料作成 30% 4) プレゼンテーション及び質疑応答 30%	各授業の前に、関連する分野の資料や論文を検索し、授業の前に読んでおくこと。また、授業時には各自が検索した資料や論文を持参し、ディスカッション等に利用する。授業時に記録したノートや配布資料を用いて復習すること。自学習の時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

人間健康学特別研究IV Special Study on Human Health IV	加地信幸, 河野喬, 武田守弘, 東川安雄, 房野真也, 松田広, 和田正信, 相川貴裕, 鬼塚純玲, 高田康史, 升本絢也, 松尾晋典, 森木吾郎, 前田一篤, 五百竹亮丞, 澤屋真樹	2年	後期	坂郷原
		2単位	必修	演習

1. 授業の目的(ねらい)

人間健康学の特定分野に焦点を当て研究の実践、指導を行い、各テーマに基づいた論文指導を行う。
自らの研究テーマに焦点を絞り、各自の設定した問いに対して最終的な結論を導き出す。また、修士論文の提出、発表会を通して修了研究を終結させる。従ってこの授業は2年次に配当し、かつ必修科目として位置付ける。
なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(1)「自ら探求心を持ち、人間健康学分野における種々の課題を認識することができ、根拠に基づいた理論的な思考・指導・行動ができる」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	ディスカッション・修士論文作成⑫	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みさせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
2	ディスカッション・修士論文作成⑬	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みさせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
3	ディスカッション・修士論文作成⑭	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みさせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
4	ディスカッション・修士論文作成⑮	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みさせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
5	ディスカッション・修士論文作成⑯	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みさせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
6	ディスカッション・修士論文作成⑰	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みさせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
7	ディスカッション・修士論文作成⑱	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みさせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
8	ディスカッション・修士論文作成⑲	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みさせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
9	ディスカッション・修士論文作成⑳	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みさせる。	ディスカッションを行うとともに、修士論文の作成に取り組みむ。	論文及び配布資料
10	学会発表準備①	背景・方法・結果をまとめ、学会発表申し込みの準備を進めさせる。	背景・方法・結果をまとめ、学会発表申し込みの準備を進める。	論文及び配布資料
11	学会発表準備②	発表資料を作成させる。	発表資料を作成する。	論文及び配布資料
12	学会発表準備③ 論文抄録の作成	学会発表に向けてプレゼンテーション・質疑応答の準備をさせる。 論文抄録を作成させる。	学会発表に向けてプレゼンテーション・質疑応答を準備する。 論文抄録を作成する。	論文及び配布資料
13	学会発表	学会発表を行わせる。	学会発表を行う。	論文及び配布資料
14	修士論文発表会準備	修士論文の発表会に向けて準備させる。	修士論文の発表会に向けて準備する。	論文及び配布資料
15	修士論文発表会・口頭試問	修士論文の発表会を行わせる。	修士論文の発表会を行う。	論文及び配布資料
16				

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
人間健康学に関する研究論文を理解することができる。 研究課題を見出し、課題解決の方法を考えることができる。 研究をデザインし、計画することができる。 学会で発表することができる。	1) 授業中の発表、討論 20% 2) 自主的学習(予習・復習など) 10% 3) プレゼンテーション資料作成 30% 4) プレゼンテーション及び質疑応答 40%	各授業の前に、関連する分野の資料や論文を検索し、授業の前に読んでおくこと。また、授業時には各自が検索した資料や論文を持参し、ディスカッション等に利用する。授業時に記録したノートや配布資料を用いて復習すること。自学習の時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし